

# 事項九 東三省鐵道問題

## (1) 一般

一〇三二 三月五日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

滿州問題ニ関スル日置大使トカラハントノ会  
談要領報告ノ件

機密第二六七号

(三月二十二日接受)

大正十五年三月五日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日置大使ト「カラハン」トノ会談要領

報告ノ件(極秘)

日置大使ト「カラハン」トノ会談要領之ニ対スル同大使ノ  
意見左記ノ通報告ス

二月二十七日諾威公使晚餐会ノ節「カラハン」ト談話ノ要  
領御参考迄ニ

食後「カ」ニ導レテ別室ニ入りタルカ彼ハ支那ノ現状ニ関

シ会談シ続イテ本使ヨリ東支鐵道問題ニ付實ス処アリ彼ハ  
之ニ対シ一応ハ片付キタルモ種々關係問題ニ付今尚交渉中  
ナリト云ヘルヲ以テ中央ニテカト云ヘハ彼ハ微笑ヲ洩シツ  
ツ支那ノ現状ニテハ中央タケニテハトテモ纏ラサルニ付哈  
爾賓ニ於テモ交渉シ居ルト云フ刹那恰モ突然思ヒ出シタル  
カ如キ様子ニテ露支ノ關係ハ兎モ角モ滿州ニ於ケル貴我兩  
國ノ關係ニハ大イニ憂慮スヘキモノアリ今ニシテ彼ノ經濟  
的競争ニ対シ適當ノ解決ヲ与ヘ置カサレハ将来由々シキ事  
態ノ發生センコトヲ惧ルト云ヘルニ付自分ハ土地ノ事情ニ  
暗クシテ貴説ノ次第ヲ充分飲込ミ得ス如何ナル事態カ斯ク  
切迫シ居ルヤト云ヘハ彼ハ洮南齊齊哈爾鐵道ノ如キハ其ノ  
一ニシテ将来若シ斯ノ如キ事件カ続々發生スルニ於テハ日  
露ノ關係ハ益々惡化スヘシ我國人ハ日本ノ斯ノ如キ活動ニ  
対シ大イニ疑惑ト不滿ヲ抱キツツアリ洮南齊齊哈爾鐵道問  
題ハ之ヲ解決スルコト決シテ困難ナラス運賃率ト貨物ノ分  
配率ニ関シ兩國間ニ協定ヲ遂クルコトヲ要スルノミ而シテ  
其後者ニ関シテハ協定既ニ成立セリ兎ニ角東支鐵道ハ支那

モ重要ナル關係者ナレハ滿州ニ於テ日露支三国間ニ協定ヲ  
ナシ置クコト必要ニシテ万一適當ノ時機ニ於テ解決ヲ付ケ  
置カサレハ悔ヲ後日ニ残スコトナシトモ限ラス自分ハ此事  
ニ関シ常ニ深く憂慮スル処アリ過般帰國ノ折田中大使ニモ  
説ク処アリ同大使ヨリ東京ヘ上申ノ次第アリタルニ東京ハ  
之ニ対シ賛成モセス反对モセスト云フ不熱心ナル態度ヲ示  
シ来リタルニハ痛ク失望セルカ是非緊切ニ東京政府ニ注意  
ヲ喚起シ三国ノ協定ヲ成立セシメ度ト熱心論議セルヲ以テ

本使ハ事情ニ疎クシテ適切貴説ヲ諒解シ居ラサルヤモ知ラ  
サルカ貴論ノ帰着スル処ハ北滿ニ於ケル鐵道敷設ニ関シ日  
露支三国政府ニ勢力範圍テモ設定セントスルニ非サルカト  
問ヒタルニ彼ハ稍処女の態度ニテソレハ政治的用語ニテ甚  
タ便利ナル言葉ナレトモ左様ノ意味ニモ非ス兎ニ角三国協  
定ニ達センコトヲ企図スルモノナリト云ヒテ別レタリ但シ  
彼ハ本使ニ向ヒテ右談話ノ次第ヲ本國政府ニ報告シタレト  
請求シタル訳ニハ非ス叙上ノ問題ニ関シ曾テ独逸公使ヨリ  
聞キタル処ヲ茲ニ付記シ以テ之ヲ追補セン「カラハン」ハ  
当地ニ於テ交際ノ範圍頗ル局限セラレ独逸公使館ノ外ニ往  
来無シトノ事ナルカ独逸公使ハ「カ」ト親シク往来シ居ル

コトヲ語レリ同公使カ曾テ本使ニ語リタル処ニ依レハ「カ」  
ハ殆ト過度ト思ハルル程ニ淡白ニシテ如何ナルコトモ自分  
ノ思フ通遠慮無ク口外スル質ノ人テアルカ常ニ彼ノ云フ処  
ヲ聞クニ若シ日本ニシテ洮南齊齊哈爾鐵道敷設ノ如キ舉動  
ヲ遠慮ナク実行スルニ於テハ露國ハ到底黙視スルヲ得ス云  
々テアルカ又同時ニ彼ハ日本トノ國交ヲ重要視スルカ故ニ  
露國ハ充分讓歩ノ覺悟アルコトヲ語リ居レリ云々  
抑「カ」ノ東洋問題ニ関スル意見カ莫斯科ニ於テ如何ナル  
地位ヲ占メ居ルヤハ贅言ノ要ナキモ彼ノ意見ニ対シ相當ノ  
注意ヲ払フヘキハ是亦申ス迄モ無キ処ナリ今日露支三国ノ  
滿蒙西比利亞ニ於ケル關係ニ付此機会ニ於テ愚見ヲ一言ス  
ルコトヲ許サルナラハ本使ハ云ハントス日露支ノ三国ハ  
将来必ス衝突スヘキ運命ニアリト断定ス要スルニ二十七  
年三十七八年ニ朝鮮及南滿ニ於テ演セラレタル処ヲ一步ヲ  
進メタル地域即北滿蒙古西比利亞ニ於テ繰返スコトナル  
ヘキハ火ヲ見ルヨリモ明白ノ形勢ナリト觀察ス運命果シテ  
然リトセハ露支ノ國勢カ今日ノ如クナルハ我國ニトリ絶好  
ノ機會ト思考セラルルニ付我對滿蒙政策ハ其実行ニハ充分  
注意シツツ益々其根底ヲ拡大鞏固ニスルヲ要ス但シ此ノ方

面ニ散在シ居ル多数朝鮮人ノ問題ニ関シテハ予メ相当ノ考慮ヲ与ヘ置クコト緊要ナリ

一〇三三 四月二十八日

出淵外務次官  
在本邦コップソ連邦大使 会谈

滿州鐵道問題ニ関スル件

コップ

最近哈爾濱方面ニ於ケル日露間ノ空氣良好トナレリト思フカ貴見如何

次官

大体然リト思フ

コップ

尤モ哈爾濱、奉天、大連方面ニ於ケル日本諸新聞ノ空氣ハ未タ然リト言ヒ難シ

次官

新聞ニ付テハ大使ト所見ヲ異ニス大使ハ個々ノ日本新聞ニ付屢々苦情ヲ唱ヘラルルカ哈府、浦潮方面ノ新聞モ亦盛ニ日本ノ惡口ヲ唱ヘ居レリ、新聞ニヨリ大勢ヲ透視シテ兩國ノ關係ヲ判断スルハ可ナリト考フモ奉天方面ノ新聞ハ日本全体ノ意見ヲ表示スルモノニアラス

次官

鐵道連絡會議ハ嘗テ莫斯科ニ於テ開カレタルカ支那代表之ニ加ハラサリシ為支那關係ノ諸点ヲ決定スルコト能ハサリシコトハ遺憾ナル次第ナリ鐵道問題ニ付テハ支那参加セサルトキハ充分目的ヲ達スルコト不可能ナリト認メラルトコロ支那ノ態度ニ付大使ノ見当ヲ承ハリタシ

コップ

支那ハ大ナル謎ニシテ此ノ謎ヲ解クコトハ甚タ困難ナルカ支那ハ今後少シク安靜トナルヘシト思ハル東支鐵道ニ関シテハ一面ニハ支那中央政府他面ニハ東三省ヲ相手トシ協定ヲ遂ケタル關係ヨリ私見トシテハ會議ニハ中央政府及東三省ヨリ代表ヲ出サシムル必要アリト思フ

次官

鐵道會議ノ目的及範圍如何

例ヘハ鐵道連絡トカ運賃ノ協定モ亦目的ノ一ナルヘキ業務上ノ点ニ付テモ相談スヘシトノ意見ナルヤ

コップ

本問題ハ真面目ニ誠意ヲ以テ審議スヘキモノナリ蓋シ滿州問題ノ主タルモノハ即兩國ノ連鎖タル鐵道問題ニシテ

コップ

御尤ノ說ニテ地方ノ小新聞ニ依リ判断スルハ素ヨリ不可ナリ併シ私ノ言ハント欲スルコロハ曲リタル鏡ニハ之ニ映スル物モ曲リテ見ユル点ニアリテ新聞記事ニハ相当ノ注意ヲ払フ必要アリト思フ

次官

貴國ニ於テハ新聞ノ言論ノ取締ヨク行ハレ居ルモ日本ニ於テハ言論ノ自由ヲ認メ居ル為新聞ノ言論ヲ取締ルコト極テ困難ナリ新聞ニハ或ハ大臣、首相ノ無能呼ハリヲ為スコトアルモ何等之ヲ取締ル法ナシ但シ新聞紙上ニ不愉快ナル記事ノ現ハレサル様注意スヘシ

コップ

御注意ニ満足ス

次官

滿州鐵道問題ハ会合ノ重ナル点ナルカ其ノ後ニ於ケル貴見如何

コップ

實質上滿州鐵道問題ニ付互ニ審議シ意見ヲ交換シタル上日露支三国ノ會議ヲ開クコトトシタシト思フ

之ヲ良好ニ解決スルコトハ兩國ノ關係ヲ緊要ナラシムヘキ重要条件ナレハナリ

會議ノ問題タルヘキハ運賃、鐵道政策(鐵道連絡ノコト)及鐵道建設問題之レナリ之ハ難易ノ程度ニ從ヒ列ネタルモノニシテ運賃問題最容易ニシテ建設問題最困難ナリ此建設問題ニ付協定スヘキ点ハ一、滿州ノ發展ニ必要ナル線ヲ定ムルコト二、兩國互ニ競争ヲ避クルコト之レナリ

次官

然ラハ建設問題ニ付意見ヲ交換スヘシ

一体競争ハ程度ノ問題ナリ例ヘハ一ノ鐵道ヨリ近距離ニ他ノ線ヲ布設スルコトハ避クルヲ要スルモ之ハ程度ノ問題ナリト思フカ競争ヲ避クルニ付何カ御意見アリヤ

コップ

鐵道ハ兩國相信賴シ居ラサルトキハ兩國ニトリ政治的道具トナルカ兩國ハ鐵道ヲシテ經濟的文化的意義ヲ有セシムルコトニ努ムルヲ可ナリト思フ

次官

經濟的文化的の見地ヨリスルコトニハ異議ナシ

滿州ニハ競争線アリトセラルルヤ

コップ

此問題ハ困難ナルモノニテ兩國互ニ異リタル意見アルヘキモ互ニ政治的經濟混亂ヲ避クルヲ必要トス洮齊鐵道ハ日本ニトリ必要ナルヘキモ露国ニトリテハ政治的經濟的混亂ヲ招クモノナリ

次官

大使ハ洮齊鐵道ト言ハルルモコレハ洮南ヨリ昂々溪迄ノ線ニシテ齊々哈爾ニ至リ居ラス

他ニ尚競争線アリヤ

コップ

私ハ鐵道専門家ニアラサルニ依リ貴問ニ答フルニ困難ヲ感スルトコロナルカ間島方面ニ建設セラルヘキ吉敦線ノ如キモ或ハ經濟的文化的意義ヲ有スルモノナランモ國境ニ近キ為多少露国ニトリ不安ヲ生セシムルモノナリ

次官

吉敦線カ競争トナルトハ不思議ノコトナリ何レノ点カ競争トナルヘキヤ建設ヲ問題トセラルル以上ハ相当ノ研究セラレタルヘシ

後延長スト言フヘキモ今ノトコロ此点ハ決マリ居ラス

コップ

延長問題ハ三国間ニ於テ審議スヘキモノト思フカ吉敦線等ノ情報ハ或ハ不正確ナルモノナラン併シ新聞ニハ大ニ注意ヲ払フヘキモノト思フ

次官

貴国官吏等ニテ間島方面ノ視察ヲ欲セラルルモノアラハ我方ハ充分便宜ヲ与フヘキニ付實際ノ情報ヲ充分視察セシメラルヘシ吉敦線ニ關スル話ハ之ニテ済ミシヤ

コップ

鐵道關係者ニアラサル故同線カ競争線ナルヤ否ヤヲ知ラス

次官

洮昂線ハ何故競争線ナルヤ

コップ

此問題ニ付テハ既ニ一年以上モ充分ナル情報ニ接シ居ルトコロナリ競争線ニ付テハ狹義ニ解スヘキモノニアラス兩國ハ須ラク政治的見地ヨリスルモ競争ヲ避クルコトニ努ムヘキナリト思フ

コップ

或ハ競争線トナラサルヘキモ露国境ニ近ク或ル幾多ノ設備即間島方面ノ鐵道企業及港灣設備ハ露国ニハ不安ヲ与フルモノナリ

次官

古クヨリ天宝山（銀產出地）ヘ狹軌鐵道布設シアルモ港灣ノ設備ナシ尤モ清津ニハ港アルモ國境ニハ何等新設備ナシ何等斯ル誤解ヲ抱クヘキ報道アリシヤ

コップ

此問題ハ新聞情報ニ基クモノニシテ之ニ付審議シタシト思ヒタルカ若シ斯ル事實ナシトセハソレ丈審議スヘキ問題ハ少クナルヘシ洮齊線ニ付テモ新聞情報ヲ根拠トスルモノナルカ同線ハ現在昂々溪迄ナリトノコトナルカ齊齊哈爾迄延長セラルルコトアルヤ

次官

吉敦線及港灣設備等ハ新聞ニ拠ルト言ハルルカ此種新聞情報ヲ種ニシテ論議セラレサランコトヲ望ム所謂洮齊線ハ洮昂間ノモノカ更ニ延長セラルルカノ質問ナルカ支那政府ト南滿鐵道トノ契約ハ昂々溪迄トアリ多分支那ハ今

次官

何等具體的解決ノ意見アリヤ

コップ

此点ハ意見交換ノ第一段ニシテ不定ノ性質ヲ有シ只今決定的提議ハ為サルカ一般的ニ三国間ニ於テ解決スルコトトシタシ目下北京ニ在ル交通次官「セレブリヤコフ」渡來スルトキハ之ニ付詳細ニ審議スルコトヲ得ヘシ

次官

滿州ニハ幾多ノ鐵道布設ヲ要スルニ依リ兩國間ニ誤解ノ起ラサル様相談シタシトノ意見ナルヤ

コップ

然リ

次官

滿州ハ沃土ニシテ其ノ天然資源ヲ開拓スルニハ幾多ノ鐵道布設ヲ要スルモ広漠タル地ナル故ニ、三ノ鐵道ヲ布設スルモ容易ニ競争トハナラスト思フカ大使ハ新線ニ付予メ三国間ニ協定ヲ為スノ意ナルヤ

コップ

三国間ニ予メ協定シテ「プログラム」ヲ作り置クコトト

シタキ意ナリ然ラハ不意打ヲ食フ如キコトナシト思フ  
次官

大使ハ鐵道布設ニ付不意打ヲ為サヌ様ト言ハルルカ若シ  
第三国タル英、米カ布設スト言フ場合ハ如何

コップ

米、英カ布設スルコトナカルヘシ

次官

例ヲ挙クルカ支那ニハ日英米仏ノ借款団アリテ支那ト約  
束シテ鐵道ヲ布設シ又ハ米國カ单独ニ布設スルコト有リ  
得ヘシト思フカ其ノ場合如何

コップ

華盛頓會議ノ際日本ハ他國カ滿州ニ鐵道ヲ布設スルコト  
ニ反対シタリト記憶スルカ如何

次官

日本ハ吉会鐵道等二、三ノ留保線ヲ除キタル他ノ場合ハ  
借款団ノ布設ニ反対セス

大使ハ三国タケニテ鐵道ヲ布設シ他國ハ布設スヘカラス

ト言ハルルヤ

コップ

ノ参加アラハ他國ノ反対アルコトナシト思フ三国以外ノ  
他國カ鐵道ヲ大仕掛ニ布設スルモ其ノ發達ヲ見ルコトナ  
カルヘシ

次官

支那カ利害關係ナキ第三国ヨリ借金シテ鐵道ヲ布設スル  
コトアルヘシト思フカ如何

コップ

支那ハ如何様ニ考フルカハ問題ナルモ支那ハ或ハ隣國ヨ  
リ借金スルコトハ一面ニハ面倒ナル問題アルヘキモ他面  
ニハ便利ナリトスル点モアリト思フ

次官

米國ハ今ノ処布設スルコトナシト思フカ支那ハ米國ヨリ  
借金スルコトハ有リ得ヘキコトナリ大使ハ滿州ニ於テ權  
力ヲ有スル鐵道ニ付考ヘ居ラルル様ナルカ東支鐵道トカ  
南滿鐵道ノ如キハ今後布設セラルルコト不可能ナリ支那  
ハ唯鐵道布設ノ為他國ヨリ借金スルコトトナルノミナリ  
從テ三国ノミニテ鐵道布設ヲ決定スルコトハ無理ナルコ  
トニアラスヤ

コップ

ソレカ正当ト思フ

次官

ソレハ何故ナルヤ滿州ハ日露ノ專有物ニアラス

大使ハ鐵道ハ政治的關係ヨリ布設スト思ハルル故斯ル議  
論モ起ルヘシ京奉線ノ如キハ英國会社ノ資本ニテ英國技  
師長ノ下ニ布設シタルモノナリ

コップ

京奉線ハ滿州ヨリ出テ他ノ方面ニ至ルモノニシテ主タ  
ル利害關係ハ滿州以外ニアリ全然別問題ナリ

次官

然ラハ錦愛鐵道ヲ承知シ居ラルルヤ嘗テ米國人之ヲ布設  
セントシタルコトアリシカ大使ハ英米人ハ布設セスト言  
ハルルヤ錦愛線ハ滿州ヲ横切リテ露國境ニ至リ布設セラ  
レントシタルモノナリ英米人カ布設セストハ曲解ニアラ  
スヤ仮ニ滿州ニ於ケル鐵道布設ニ付三国間ニ相談纏マリ  
タルトテ他國ハ之ニ反対スヘシト思ハルルカ大使ノ考如  
何

コップ

支那ヲ参加セシメサラハ或ハ他國ノ反対アルヘキモ支那

學理上ハサモアルヘシ併シ他國ノ借金ニテ布設スルコト  
ハ日本ニトリ望マシキ現象ナルヤ

次官

私ハ liberal ナル考ヲ有スルモノニテ滿州開發ノ為ニハ  
他國ノ資本ノ投下ニ何等異存ナシ然ルニ大使ハ他國ノ資  
本ヲ入レサル方針ナルヤ

コップ

資本ノミニ関シテナラハ問題ハ別ナリ

次官

最後ニ一言センニ滿州ハ日露兩國ヨリノミ之ヲ見ス少シ  
大キク見ルヲ適當ニアラスヤト思フ大使モ広ク見テ研究  
セラレントコトヲ望ム  
十数年前ノ兩國旧式政治家ハ滿州ヲ互ニ兩分セント考ヘ  
タルカ今日ノ日本ハ而カク考ヘ居ラス

コップ

兩國互ニ平和ヲ維持シタキ希望ヲ以テ滿州問題ヲ見ルモ  
ノニシテ私モ滿州ハ兩國ノ独占スヘキモノニアラス他國  
ノ滿州ニ來ルヲ妨クヘキモノニアラスト思フ 云々

一〇三四 七月

外務省亜細亞局調

滿蒙鐵道問題ニ関スル件

付記一

五月外務省亜細亞局調

滿州ニ於ケル鐵道計画現況摘要一覽表

(付 滿州ニ於ケル既成鐵道)

二

八月二十八日付大藏滿鐵理事ヨリ木村亜細亞

局長宛滿鐵庶庶二六第六号ノ七

滿蒙鐵道計画ニ関スル方針ニ関シ滿鐵側ノ希

望申越ノ件

大正十五年七月

極秘

滿蒙鐵道問題ニ関スル件

一、滿蒙ニ於ケル鐵道計画ニ関スル件

二、大正十五年七月滿蒙鐵道問題ニ関スル木村亜細

亞局長ト滿鐵大藏理事トノ会谈要領

三、亜細亞局私案滿蒙鐵道計画ニ関スル方針

外務省亜細亞局

一、滿蒙ニ於ケル鐵道計画ニ関スル件

(大正十五年七月調)

(イ) 曩ニ滿鐵ニ於テハ滿蒙ニ於ケル我既得ノ敷設借款權ヲ

伴フ鐵道線中吉会、長洮、吉海、開海ノ四線ニ關連シ  
吉会、長扶(長洮線ノ一部トシテ差当リ長春ヨリ扶余  
(伯都納)ニ至ルモノ)開朝(吉海、開海線ノ一部タ  
ル開原、朝陽鎮間)及新ニ白開(白音太拉開魯間)並  
洮昂ノ二線ヲ計畫セル処政府ハ滿鐵中心主義ノ下ニ大  
正十三年八月二十二日閣議ヲ以テ決定シ(一)滿鐵ハ直ニ  
洮昂線建設ヲ實行スルト共ニ吉会(差当リ吉林敦化  
間)長洮(差当リ長春、扶余、大賚間)ノ諸線ノ實現  
ヲモ促進スヘキコト(二)奉天側ニ於テ自ラ奉天海龍間鉄  
道ノ建設ヲ行フニ於テハ我方ハ開海線ヲ建設セサルコ  
トヲ承認スルコト(三)奉天側ニ於テ開海線又ハ奉海線ニ  
關シ外資ヲ借入ルル場合ニハ先ヅ日本側ニ商議セシム  
ルコト(四)興業、台灣、朝鮮三銀行ノ滿蒙鐵道借款前貸  
金ハ不確實債務トシテ關稅會議ニ於テ一併整理スルコ  
トトスルモ右前貸金ノ全部又ハ一部整理不成立ノ場合  
ハ三銀行ノ損失補償方法ニ付滿鐵三銀行間ニ協議スル  
コト、但シ滿鐵ノ滿蒙鐵道建設ニ關スル權利ハ右三銀  
行ノ權利ノ承継トセス全然別個ノ關係トスルコト等ニ  
付内閣ヨリ滿鐵ニ對シ指令ノ次第アリタリ

(ロ) 右閣議決定ヨリ約二ケ年ヲ經過シタル今日滿鐵ニ於テ  
ハ既ニ(一)洮昂線ハ全線ノ建設ヲ終リ(二)吉敦線ハ工事ニ  
着手シ(三)長伯線(長春、伯都納(扶余)間)亦滿鐵ノ  
側面ヨリノ援助ニヨリ漸ク具体化セントシツツアル状  
態ニシテ(奉海、開海兩線ハ支那側ニ於テ敷設シツツ  
アリ)即前頭閣議決定ノ方針ハ大体ニ於テ遂行セラレ  
タルモノト認ムヘシ

然ノミナラス滿鐵ニ於テハ更ニ一步ヲ進メ呼綏鐵道、  
白開鐵道及其延長線、昂齊鐵道、索倫鐵道、長扶鐵道  
延長線(安達ニ至ラントスルモノ)其他ニ付テモ或程  
度迄之ニ關係シ又ハ關係セントシツツアル趣ナルヲ以  
テ、前記既定方針ヲ第一期計画トスレハ今ヤ將ニ第二  
期計画ヲ確立スヘキ時機ニ到達シ居レリト思考セラル  
(尚滿蒙ニ於ケル滿鐵關係鐵道諸問題ノ詳細ニ付テハ  
別紙参照)

(ハ) 然ルニ露國側ニ於テハ滿州殊ニ北滿ニ於ケル鐵道計画  
ニ對シテハ甚敏感ニシテ既ニ「コップ」大使、「セレ  
ブリヤコフ」交通次長等ヨリ我方ニ對シ滿蒙ニ於ケル  
鐵道計画ニ付日露間ニ一定ノ協定ヲ遂ケ度旨ヲ申出テ

(別紙)

來レルコトアリタルモ我方ニ於テハ右ハ結局滿蒙ニ於  
テ何等カノ形式ニ依リ勢力範圍又ハ利益圈ヲ設定スル  
コトトナルヘキヲ以テ日本トシテハ到底之ニ賛成シ難  
シトテ可然底酬シ且南北滿州ニ於ケル機會均等主義ヲ  
高調シ置キタル次第ナルカ我方ニ於テ將來北滿地方ニ  
發展スルコトニハ異議ナシトスルモ同地方ニ於ケル鉄  
道建設ノ順序方法等ハ慎重考慮シ殊ニ日露支三国關係  
ノ大局ニ着眼シ徒ニ露國側ノ感情ヲ害シ無益ナル競争  
及確執ヲ生スル事態ハ之ヲ抑止セサルヘカラス今後ノ  
滿蒙ニ於ケル鐵道計画ハ此ノ意味ニ於テ予メ熟慮攻究  
ノ要アリト信ス  
而シテ右鐵道計画ニ付テハ政府滿鐵間ニ苟モ意見ノ齟  
齬ナキヲ期スル要アルノミナラス次第ニ依リテハ再ヒ  
閣議ノ決定ヲ請フヘキモノナルヲ以テ滿鐵ニ於テモ此  
際前述第一期計画略完成ノ見込立チタルヲ機トシ同社  
ノ有スル將來ノ鐵道計画全部ニ付腹藏ナキ意見ヲ開陳  
シ新ニ第二期計画ニ付當方トノ間ニ充分ナル打合ヲナ  
シ置クコト必要ナリト思考セラル

現在滿蒙ニ於ケル滿鐵關係鐵道問題大要

(一)馬海鐵道(馬家船口(松浦)海倫間即寶黑鐵道予定線ノ一部)

(a)第一段松浦呼蘭線ニ対スル滿鐵ノ材料供給ハ大体完了シタル趣ナリ

(b)第二段呼蘭綏化線ニ対スル滿鐵ノ材料供給契約実行中止方ニ付テハ滿鐵ニ於テ目下支那側ト交渉中ナル趣ナリ(付録一)

(二)齊昂鐵道(齊々哈爾、昂々溪間)

(a)現在ノ齊昂輕便鐵道ヲ買収改造シテ之ヲ洮昂鐵道ノ延長線トナスノ問題ニ付テハ既ニ滿鐵支那側間ニハ了解済ナルヤノ趣ニテ唯支那側ニ於テハ右ニ関スル東支側トノ交渉ハ東支線ニ依ル呼綏線材料運搬ヲ終ル迄暫ク之ヲ差控フヘキ意向ナリトノコトナリ(付録二)

(b)齊昂線ヲ更ニ延長シテ嫩江方面ニ至ラントスル計画ハ未タ具体的問題トナリ居ラサルカ如シ

(三)吉会鐵道(吉林会寧間尤モ實際ハ敦化会寧間)

(a)支那側ニ於テハ圖們江架橋ニ付広軌用橋桁使用ニ異

尚本年五月滿鐵道側ヨリ本鐵道敷設ニ付滿鐵支那當局間ニ協議進行中ナル旨通報アリタリ(付録五)

(b)本鐵道ハ此際之ヲ延長シテ林西ニ至ラシムルノ計画モアルヤニ伝ヘラル

(四)長伯鐵道(長春伯都納間、或ハ之ヲ大賚迄延長ス)

(a)本鐵道計画ハ客年五月一度實現セラレントシタルモ資金關係ヨリ行悩トナリタル処本年三、四月頃ヨリ再ヒ具体的トナリ支那側及和登良吉間ニ頻リニ協議ヲ進メツツアル趣ナルカ他方滿鐵ニ於テモ或程度迄之ヲ援助セントスルノ意向ナルカ如シ(付録六)

(b)本線ハ将来之ヲ北方ニ延長シテ東支線ヲ横斷シ安達ニ至ラントスルモノノ如シ

(七)額穆、寧古塔間鐵道、滿鐵ニ於テハ将来吉敦鐵道ノ一地点ヨリ額穆ヲ經テ寧古塔方面ニ至ル鐵道ノ實現ヲ期シ居ルカ如キ処本線ハ吉会予定線中最モ有利ナルモノナル趣ナリ

(八)洮鐵道公債發行問題

本件ニ関シテハ曩ニ滿鐵森理事ヨリ木村局長迄申出テタル次第アリ右要旨ハ大体(一)滿鐵側ノ洮鐵道ニ対スル

議ナキノミナラス陶延吉道尹ハ在間島鈴木總領事ニ対シ吉会線建設モ結局時期ノ問題ニ過キスト認メ居ル旨ヲ語リタル趣ナリ(付録三ノ一)

(b)尚本件ニ関シテハ吉会鐵道促進ニ関スル件調書参照(付録三ノ二)

(四)索倫鐵道(洮南索倫間)

大平滿鐵副社長ノ言ニ依レハ滿鐵ニ於テハ社議トシテ本鐵道ニ関スル支那側借款申込ミニハ応セサルコトト決定シタル趣ナルカ支那側ニ於テハ借款ニヨル資金調達ニ急ナル為滿鐵及吉田總領事ニ対シ本鐵道借款ニ付申入レノ次第アリ又鐵道關係者中ニモ本鐵道予定沿線ハ地味肥沃ナルヲ以テ有利ナル線ナリト思考シ居レリト聞ク(付録四)

(五)白開鐵道(洮鐵道支線鄭白線ノ延長即白音太拉開魯間)

(a)大正十四年九月安広滿鐵社長ハ木村亜細亜局長ヲ來訪シ滿鐵ノ本鐵道ニ関与スヘキコトニ付同局長ノ諒解ヲ求メ木村局長ハ之ニ対シ右ハ大体差支ナキ様認メラルモ尚考慮シ置クヘキ旨ヲ述ヘ置ケリ

貸金三千数百万円ヲ整理スル為此際洮鐵道借款契約規定ノ公債ヲ發行シ度モ(二)右契約規定五分利付四十年期限四千五百万円公債ニテハ其手取金ヲ以テ僅ニ滿鐵貸付金整理ニ充テ得ルノミニシテ洮鐵道ノ必要トスル四、五百万円ノ鐵道改良資金ヲ捻出シ難キニ付六分利付期限十年位ノ条件ニテ發行シ度ト云フニアリ(付録七)

(六)鐵道連絡問題

a 洮昂四洮南滿三線連絡、本件連絡會議ハ大正十五年三月十日大連ニ於テ滿鐵主催ノ下ニ開催セラレタルモ洮昂側代表ノ不当ナル要求ノ為ニ決裂シタルモノナルカ、元來洮昂鐵道建設請負契約付属交換文書ニハ洮昂線完成ノ曉ニハ同鐵道ノ運賃ハ滿鐵ト協議ノ上之ヲ定ムヘキ旨ヲ規定セラレ居リ旁々滿鐵トシテモ速ニ適當ナル協定ノ締結ヲ図ルコト可然(付録八ノ一)

b 奉海南滿連絡會議、滿鐵及奉海側間本件連絡會議ハ大正十五年五月奉天ニ於テ開催セラレタルモ双方ノ主張折合ハスシテ不調ニ終リタルカ、右會議モ速ニ

再開セラルヘキモノトス(付録八ノ二)

(c) 東支滿鐵連絡會議、東支、滿鉄間ノ運賃協定ハ其必要緊切ナルニモ拘ラス未タ實現セラレ居ラサル処(客年九月南滿、烏蘇里兩鐵道間運送數量協定ニ対シテモ東支側ハ参加セサリシノミナラス却テ右協定ノ実行ヲ妨害スルノ態度ヲ持シ居レリ) 本問題ニ関シテハ本年五月「セレブリヤコフ」及出洲次官木村重細重局長會談ノ際ニ於テモ日露双方ニ於テ各關係会社ニ対シ右協定促進方ニ付指図スヘキコトヲ約シタル次第モアリ旁々速ニ適當ノ方法ニヨリ本件協定ニ付滿鉄及東支間ノ協議ヲ促進スルコト可然(目下滿鉄大藏理事ハ哈爾濱ニ於テ東支管理局長「エムシヤノフ」ト本件ニ関連シ意見交換中ナル趣ナリ)(付録八ノ三)

編註 付録省略

二、大正十五年七月滿蒙鐵道問題ニ関スル木村重細重局長ト滿鉄大藏理事トノ會談要領(第一回會談)

大正十五年七月十七日滿鉄大藏理事木村重細重局長ヲ來訪

政府ニテハ監督獎勵シ他ノ私設顧問等ヨリ重大ナル事項ニ付隱密ニ政府側ニ申出ツルモ一切応セサルコトニ談合セル次第ナリ

今日ハ主トシテ索倫鐵道ニ付話シ度キカ同鐵道促進理由トシテ軍部方面ノ拳クル処ハ軍事上甚タ重要ナリトノ点ニアルモ目下日支露三国間ノ關係ハ何等カカル軍用鐵道ノ緊急敷設ヲ必要トスル状態ニアラス而シテ露西亜側ハ索倫鐵道ハ日本カ支那側ヲ使噓シテ建設ヲ企図スル軍用線ト思考シ結局海拉爾ニ延ハスモノトシテ其敷設ヲ最モ恐レ居ルモノナルカ本線ハ經濟上有利ナリヤト尋ネ仮リニ有利ナリトスルモ經濟上ノ見地ヨリスレハ他ニ幾多ノ更ニ有利ナルヘキ計画線アリト述ヘ且本鐵道建設費何程ナルヘキカヲ問ヒタル処

大藏理事ハ右建設費ハ大体洮齊鐵道ト同額位ナレハ先ツ約千二百万円位ナルヘク本線ハ經濟上ハ充分収支償フヘキモノト思考ス(本線沿線タル洮兒河流域ハ洮齊線沿線ヨリ遙ニ肥沃ナリ)

尚滿蒙鐵道敷設順序トシテ軍部側ハ吉會、索倫ヲ第一トシ滿鉄ハ長大、呼海兩線ヲ主張シ居ル処大藏個人トシテハ先

シ滿蒙鐵道問題ニ関シ先ツ滿鉄トシテハ滿蒙鐵道問題ハ他ノ一切ノ財政問題ト切離シ純然タル鐵道企業トシテ相談ヲ受クルニ非サレハ之ニ応シ難キ次第ナルカ右ハ滿鉄ヨリ奉天側ニ対シ直接言明ヲ憚ル事情モアルニ付折ヲ見テ外務省側ヨリ楊宇霆辺ニ夫トナク申聞ケラレタキモノナリト述ヘタルニ付木村局長ハ右ノ点ニ付テハ先年松岡理事トモ話済ニシテ鐵道問題ニ藉口シテ前貸其ノ他ノ名義ヲ以テ贈賄スルコトハ絶對ニ之ヲ忌避シタリ此ノ意味ニ於テ財政問題ト切離シ鐵道企業ノ見地ヨリ考慮シ且援助スルコトノ方針ハ全然同感ナル旨ヲ答ヘタル処大藏理事ハ更ニ索倫鐵道ニ関スル別紙(大正十五年七月七日在奉天總領事來信機密公第五三五号)町野張作霖顧問トノ會談ニ関シ町野ニ対シテハ「外務省ニテハ本件計画ニ絶對反対ナルノミナラスカカルコトハ本來支那側ニ於テモ吉田總領事ヲ通シテ正式ニ申出スヘキ筋合ノモノナリト申聞ケラレタリ」トノ趣旨ヲ電報シ置キタルヲ以テ町野來省ノ節ハ外務省ヨリモ可然御説得アリタシト述ヘ尚張作霖周囲ノ私設顧問ノ弊害ヲ續述セルニ対シ木村局長ハ自分トシテハ吉田總領事トモ協議シ此ノ弊害ヲ徐ニ除去スル為ニハ先ツ松井顧問ノ如キ公設顧問ヲ

ツ通達(白音太拉)開魯林西線ヲ希望スル次第ナリ又奉天側カ頻リニ索倫線ノ實現ニ付焦慮シ居ルハ恐ク(イ)張作霖カ屯墾事宜督弁ニ就任以來開懇ニ熱心トナリ而シテ索倫線沿線ノ開懇上有利ナルヲ聞知セルコト(ロ)楊宇霆辺ノ作戰上ヨリノ見地(ハ)日本人顧問連カ日本陸軍ノ立場ヨリスル作戰上ノ見地等ノ三理由ヨリ出ツルモノナルヘシト述ヘタリ右ニ対シ

木村局長ハ北滿ニ於ケル鐵道計画ノ順序方法ニ付キテハ慎重考慮シ無益ニ露國側ノ感情ヲ刺激スルヲ避クルヲ要スル処索倫線ハ右見地ヨリスレハ最モ危険ナルモノナリ然ノミナラス最近北滿ニ於ケル軍用計画ハ凡テ露國ヲ仮想敵トスル作戰計画ニ基クモノナルカ自分トシテ今日日露戰爭ヲ目標トスルハ余リニ架空的ナリト思考ス露國側カ假令南下ヲ企ツルトスルモ目下ノ狀態ニ於テハ寧ロ烏梁海、売買城方面ニ於テ之ヲ為スヘキモノナル処他方曩ニ東支南線紛擾問題ノ際ニ於ケル露國側ノ態度ニ徴スルモ同國側ニ於テハ未タ日本ヲ敵トスル戰爭計画モ準備モナク却テ露國ノ準備未タ成ラサルニ先立チ日本側カ軍備ヲ整ヘ鐵道ヲ計画シ北滿ヨリ露國ヲ追ハムトノ疑深シ先日「セレブリヤコフ」來朝

会谈ノ際モ先方ハ真先ニ洮南ヨリ索倫ヲ經テ海拉爾ニ出スル日本側鐵道計画ノ有無ヲ持出タル位ナルカ右ハ当方ニ於テモ一笑ニ付シ之ニ取合フコトナカリキ

要之以上ノ御話ヲ總合スレハ索倫鐵道ハ經濟上ハ「ペイ」スヘキ線ナルモ敢テ急ヲ要セサルモノナル処政治上ヨリ之ヲ見レハ右ハ無益ニ露國側ノ感情ヲ刺激スヘキ線ナルヲ以テ之カ敷設ノ順序方法ニ付テハ尚慎重考慮ノ要アリ差当リテハ夫レヨリモ他ノ經濟上モ有利ニシテ且何等ノ問題ヲ惹起セサルヘキ既設線ノ延長線(例ヘハ白音太拉ヨリ林西ニ至ル線)ノ如キモノヨリ着手スルヲ可トスルノ結論ニ達シタリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ大藏理事ハ全然同感ノ意ヲ表シタリ

大正十五年七月滿蒙鐵道問題ニ關スル木村亜細亜局長ト滿鉄大藏理事トノ会谈要領(第二回会谈)

大正十五年七月二十二日滿鉄大藏理事木村亜細亜局長ヲ來訪シ前回ノ会谈(七月十七日)ニ引續キ滿蒙鐵道問題ニ關シ意見交換ヲナスコト左ノ如シ  
一、長伯鐵道

(ロ)魏武英(吉長鐵路局長) 同人ニ對シテハ川村前社長、松岡前理事並自分モ速ニ本鐵道計画実行可然旨ヲ慫慂シ置キタリ

(ハ)峰嶺 同人ハ劉樹春(吉林省議會副議長)ヲ通シ省議會方面ヲ動かサントシ居レリ

(ニ)深沢 同人ハ自分(大藏理事)ニ手紙ヲ寄越シ榮厚(吉林省財政總長)ト懇意ナルヲ以テ本鐵道ニ關シ榮厚ニ話シテモヨシトノ旨ヲ申出タルモ右申出ハ当分其儘トシ置ク考ナリ尤モ深沢ハ王樹翰トモ別懇ノ間柄ナルヲ以テ王復帰ノ場合ニハ深沢ヲ用ヒント欲ス

(四)孫其昌(吉林道尹) 同人ハ自己ノ手ヲ以テ本線實現ヲ熱心ニ画策シ居レリ而シテ右ニ對シテハ農安、伯都納、長春ノ三県モ賛成ニシテ右三県ハ本線布設費トシテ合計二百萬元(農安六十萬、伯都納、長春各七十萬)釀出方ニ同意セル趣ナリ

然ノミナラス本計画ニ對シテハ石同舉其他從前ノ關係者皆参加シ居レルヲ以テ問題ハ唯督軍側ノ意向如何ニ係レリ而シテ孫ハ目下其為熙洽(吉林軍參謀長)說得方ニ努力シ居レル模様ナルカ右ニシテ成功スレハ張作相モ賛成

木村局長ハ先ツ曩ニ深沢前領事ニ面会シタル処同氏ハ孫吉長道尹ハ本鐵道ニ關シ日本側ハ之ヲ借款鐵道トスルカ少クトモ和登等特別關係者ノ手ヲ通シ建設スルニ非レハ援助セストノ意向ニ非スヤトテ危惧シ居レル趣ヲ述ヘタルニ付同局長ハ右ハ全ク孫等ノ誤解ニシテ當方ニ於テハ滿蒙鐵道計画ニ付一定ノ方針ヲ確立シ置キ滿鉄ハ右方針ニ基キ最モ容易ナル方法ニ依リ該計画ヲ實現セントスル次第第二過キス從テ本鐵道モ必スシモ特別ノ形式(例ハ借款鐵道)ニ依ルヲ要セスト語リ置キタルカ右ノ点ニ關シテハ既ニ大正十四年六月二十四日幣原大臣ノ決裁ヲ得テ別紙寫ノ通内閣側ノ了解ヲ得置キタル次第ハ御承知ノ通りナリト述ヘタルニ大藏理事ハ本鐵道ニ關シ外務省側カ斯ル自由ナル態度ヲ持セラルルハ自分ノ大ニ喜フ所ナリ

然ルニ從來ノ経緯ヲ見ルニ本鐵道關係者トシテハ大体左ノ五ヲ數フルコトヲ得即チ  
(イ)石同舉 同人ハ昨年和登ト合同シ民營計画ヲ立テタル処松岡前理事ハ始め之ヲ利用セントスル意向ナルカ如カリシモ如何ナル理由ニヤ其後突然北京ヨリ電報シ右計画ヲ中止セシメタリ

スヘキ次第ナルニ付其ノ時ハ直ニ孫ヨリ滿鉄側ニ何等カノ申込アル筈ナリ滿鉄トシテハ其際張作霖側ニ開談シ大正十三年洮昂線契約當時ノ覚書ヲ引用シ本線布設ニ對シ其同意ヲ取付クル手筈ナリ

然ルニ孫側ハ前記二百萬元ヲ以テ敷地準備等ノ費用ニ充テ滿鉄ニ對シテハ唯所謂 Superstructure ニ付援助ヲ求メントスル趣ナル処右ニ付テハ滿鉄トシテハ異議ナキ処外務省側ニ於テモ其形式ノ如何ヲ問ハス唯本線ノ實現促進ヲ希望セラルル次第ヲ承知シ欣懷ニ堪ヘス尚本鐵道予定線ハ必スシモ所謂長洮予定線ト同一ナラサルヘキモ之亦御了承アリタシ

而シテ以上ノ点ニ付御同意ナルニ於テハ孫其昌ノ熙洽說得上ノ都合モアルヘキニ付適當ノ機會ニ於テ人(例ハ鎌田)ヲ通シ孫ニ對シ滿鉄側ノ意向(滿鉄ニ於テハ本線布設ニ付テハ其形式ノ如何ヲ問ハス出來得ル限り援助スヘキヲ以テ心配ナク計画遂行アリタシトノ意味)ヲ夫トナク明瞭ニシ置ク方宜敷キ様思考スルモ外務省側ノ御意見如何ト問ヒタルニ付木村局長ハ自分限りハ右ニ對シテハ大体異存ナシト認ムルモ本鐵道ニ關シテハ前述大正十四

年六月二十四日ノ覺書次第アル所右覺書ニ依レハ「本線ハ其軌幅滿鉄ト同様ニシテ且其ノ債權ノ担保確実ニシテ官設線ノ場合ト同様ナル債權確保ノ方法ヲ立テラルルニ於テハ大体ニ於テ私設線ニ對シ資金貸与又ハ請負契約ヲ為スモ支障無キモノト認ム」トナリ居レル処右債權確保ノ問題ニ付テハ此際今少シ融通ヲツケ必スシモ官設線同様程度タルヲ要セサルコトトナシ置クコト必要ナルヘキニ付右ノ点ハ大体別紙甲号覺書案ノ通リトシ大臣ノ決議ヲ經タル上内閣側ニ報告シ置クヲ要スル次第ナリト答ヘタリ

続イテ大蔵理事ハ北滿方面ニ於テ所謂宝庫ト称セラルル農産物ノ中心地帯ハ三アリ即大賚地方、拜泉地方並五常地方之ニシテ右各地方ニ對シテハ日露共ニ鐵道ヲ敷設シ農産物吸集ヲ企圖シ居ル次第ナル処（即大賚ニ對シテハ日本側ノ長大線露國側ノ安達大賚線、拜泉ニ對シテハ日本側ノ呼海線又ハ長大延長線、露國側ノ安達拜泉線、五常ニ對シテハ日本側ノ吉林五常線露國側ノ一面坡又ハ阿什河五常線）本鐵道ノ目的ハ専ラ大賚付近ノ農産物吸集並松花江ヲ利用シテ輸送サルル材木ノ吸集ニアリト述ヘ又本鐵道ノ延長トシ

到底立行カサル状態ニアリ然ルニ哈爾濱ヲ起点トスル東行及南行貨物貨率ハ別表ニ示スカ如ク安達ヲ起点トスルモノニ比スレハ遙ニ南行貨物ニ寛大ナルヲ以テ若シ拜泉地方貨物カ呼海線ニヨリ哈爾濱ニ搬出セラルルニ於テハ滿鉄トシテハ南行貨物吸集上大ニ有利ナル地位ヲ得ル次第ナリ尤モ然ル場合ニハ東支側ハ南行貨物貨率ヲ増加スヘシトノ惧モアルヘキ処哈爾濱長春間ハ馬車輸送ニ依ル競争アルヲ以テ今以上ノ高率ナル運賃ヲ課シ難キ事情アリ從テ滿鉄ノ計算ニ依レハ呼海線完成シ拜泉地方ノ貨物カ哈爾濱ニ搬出セラルルニ至ラハ右貨物ノ南行吸集ニ依リ一年約七十万円乃至百万円ノ利益ヲ見越シ居ル次第ナリト述ヘタリ

右ニ對シ木村局長ハ呼海線カ滿鉄ノ榮養線タルヘキ理由ハ御説明ニ依リ略諒解セリ乍然曩ニ松岡理事トノ話合ニ依ルモ呼海鐵道ハ東支線ノ彼方ニ偏在シ東支、東、西及南線ニ曲繞セラレ孤立ノ位置ニアルニ付結局不徹底ナル東支鐵道ノ榮養線トナリ終ルヘク旁々本線ハ東支ニ依ル五呎軌幅ノ寶黑線實現防止ヲ以テ其目的トシ妄ニ之カ延長ニ干与スヘカラサルコトニ了解シ居レルノミナラス一方ニ於テ齊昂線

テハ初メハ之ヲ安達方面ニ至ラシメ拜泉付近ノ農産物吸集ヲ企画シタルモ右ニ對シテハ東支側ノ強硬ナル反對モアルヘク又楊宇霆等ハ齊々哈爾濱ヲ希望シ居レルニ付旁々自分トシテモ目下齊々哈爾濱延長說ニ傾キ居レリト語レルニ付木村局長ハ長大線ハ各方面ニ故障ナク進捗シ得ヘク而シテ右ハ前記北滿宝庫ノ一中心点ニ到達スルヲ以テ其目的ヲ達シタルモノト云ヒ得ヘキ処其ノ以上ノ延長線ノ問題ニ至リテハ東支鐵道トノ連絡又ハ橫斷ノ問題ヲ生シ却テ無要ニ露國側ノ感情ヲ刺戟シ競争ヲ惹起ノ惧アルニ付慎重考慮ヲ要スヘク旁々茲暫クハ大賚ニ止ムルコト可然トノ趣ヲ述ヘタリ

## 二、呼海鐵道並齊昂鐵道問題

大蔵理事ハ先ツ滿鉄トシテ呼海鐵道ヲ必要トスル理由ハ北滿宝庫中ノ一中心地帯即拜泉付近農産物吸集ニ在リ即該貨物ハ從來馬車等ニ依リ東支駅安達ニ搬出セラレ居ル処別表東支鐵道運賃率ニ依ルモ明ナル如ク安達長春間、安達「ポクラニチナヤ」間運賃ハ殆ト同額ナルヲ以テ滿鉄トシテハ右東支駅安達ニ搬出サルル拜泉地方貨物吸集南下ノ為ニハ長春大連間四三七哩ノ線ヲ以テ「ポクラニチナヤ」浦潮間一四五哩ノ線ト競争セサルヘカラサル為

ノ東支橫斷ナル難問題ヲ生シ居レルニモ拘ハラス滿鉄ニ於テ何等右ニ顧慮スルコトナク本線ヲ四呎八吋半ノ軌幅ヲ以テ北方ニ延長セシメ行クニ於テハ益々露國ノ感情ヲ刺戟スル結果齊昂線橫斷問題ノ解決愈々困難トナルニ至ルヘシ然ルニ齊昂線ハ我方計畫通りニ解決スルニ於テハ標準軌幅ヲ以テ直接洮昂線ニ接続スヘキモノナルヲ以テ將來共專ラ洮昂線ノ榮養線トシテ甚タ重要ナル線タルヘキノミナラス軍略其他ノ關係上モ呼海線ニ比シ其価値大ナルモノアルニ鑑ミ本線ヲ犧牲ニシテ松呼線ノ延長ヲ計ルカ如キハ本末顛倒ト云フヘキ次第ニ付呼海延長線ハ暫ク之ヲ差控ヘ齊昂線橫斷問題交渉ニ利用スル方得策ナルヘク將又東支側ニ對シテモ單ニ之ヲ圧迫シ窮地ニ陥ルルコトノミヲ目的トスルハ策ノ得タルモノニ非サルヘク場合ニ依リテハ *give and take* ノ方針ヲ以テ互讓妥協ニ依リ各種問題ノ円滿解決ヲ計ルコト可然

然ルニ滿鉄側ニ於テハ單ニ拜泉地方貨物吸集上呼海線ノ布設實現ヲ希望スルノミトスレハ其投資關係ノ如何等ハ敢テ意ニ關セサルモノナルヘク從テ松呼海延長線ニ對シテハ寧ロ上記ノ意味ニ依リ或ハ露國ヲ引入レ又ハ借款團等ニモ交

渉シ國際のニ之ヲ布設スルコトモ差支無キニ非サルカ斯克  
滿鉄側ニ於テ妥協の態度ニ出ツルニ於テハ露國側ノ感情モ  
大ニ和キ齊昂線問題解決モ容易トナリ又其他各種ノ懸案解  
決ニモ大ニ資スル所アルヘク結局一挙兩得ノ策ト云フヘシ  
ト述ヘタルニ

大藏理事ハ give and take ノ方針ニハ全然同感ナリ乍然  
呼海線ハ元來吳俊陞ノ鐵道ニシテ滿鉄ハ之ニ對シ普通ノ値  
段ニテモ現金払ヲ以テ材料ヲ売込ム普通ノ商売ヲナセル  
ニ過キス露國側ニ於テモ本線ニ關シ滿鉄カ何等其以上關係  
シ居ラサルコトヲ知悉スルノミナラス本線ヲ以テ東支線ノ  
支線トサヘ見做シ居ル位ナルヲ以テ齊昂線トハ全ク別個ノ  
關係ニ立ツモノト認メラルヘキモノト思考ス然ルニ支那側  
ニ於テハ是非其本年中ニ呼綏間ヲ開通シ度希望ナルカ滿鉄  
ノ材料供給ヲ九月以後迄モ差止メラルルニ於テハ冬季間工  
事不可能ナル事情並貨物出廻期カ秋季以後ナル關係上本年  
度ニ布敷利用出來ス結局本線開通ハ一年間延期ヲ余儀ナク  
セラレ支那側ハ勿論滿鉄トシテモ支那側ニ對スル立場上甚  
困却スル次第ナリ從テ可成同理事滯在中ニ本件契約許可ノ  
意向ヲ承知シ置キタシ

付協議アルニ非レハ運賃協定等ノ商議ニ応セサルノ態度ヲ  
示シ居ルニ付自分滿滿ノ上在奉天又ハ哈爾濱露國領事ニ對  
シ露國側ノ滿蒙鐵道ニ關スル具體の方針ヲ知り度シト切出  
シ、話ノ次第ニ依リテハ齊昂線橫斷ノ代償トシテ何ヲ求ム  
ルカ露國側ノ意向ヲ確ムルコトモ一策ト思考スト述ヘタル  
ニ付木村局長ハ政府トシテハ鐵道計畫ニ付露國側ト予メ談  
合スルコトハ不得策ナリ但シ大藏個人トシテ東支鐵道當局  
者ト談合スルコトハ大体差支ナシト認ムルモ尚ヨク考慮ス  
ヘキ旨ヲ述ヘ又齊昂線問題ニ關シテハ大藏理事ノ述フルカ  
如ク他ニ代償ヲ与ヘ得ヘキ腹案アルニ於テハ必スシモ呼海  
線ヲ以テ之ニ充ツル必要モ無キ様認メラルモ右ニ關シテ  
ハ當方ニ於テモ尚ヨク考究ノ要アリ且決定の方針ハ大臣ノ  
裁可ヲ得タル上ニ非サレハ明言シ難キニ付早速案ヲ立テテ  
大臣ノ高裁ヲ仰ク様取計フヘシト答ヘタリ

三、白開鐵道、促成ニ就テハ十七日会谈ノ際大藏木村両者  
ノ意見一致ヲ見タルカ尚大藏理事ハ本線ニ關シ既ニ滿  
鉄、奉天側間ニ協議ヲ開始シツツアル処右ハ軍事上モ相  
當重要ナルモノナル次第ヲ述ヘ且本線ニ關シテハ曩ニ四  
洮鐵路局長張作霖ヨリノ手紙ヲ携ヘ同理事ヲ訪問シ本線

然ルニ他方齊昂線橫斷問題ハ吳俊陞ニ於テ飽迄之ヲ実行セ  
ントノ考ニテ只其ノ交渉時期ハ東支ニ依ル呼海線貨物運搬  
終了後トスルコトニナリ居レル趣ナルニ付自分トシテハ結  
局実現セラルヘキヲ信スルモ右様ノ次第ニテ呼海線ヲ本線  
交渉ニ利用セントスルハ其時期ノ前後ノ關係ヨリスルモ稍  
困難ヲ感ス乍然 give and take ノ方針ニハ自分モ賛成ナ  
ルニ付若シ齊昂線解決ノ為東支側ニ補償ヲ与フルコト必要  
ナルニ於テハ右ハ左ノ三方法ノ一ニ依ルコト如何カト思考  
ス即チ

- (イ) 海林寧古塔線ヲ露式軌幅ニテ布設スルヲ承認スルコト
- (ロ) 一面坡五常線——同右

(ハ) 齊々哈爾以北線又ハ綏化以北線ヲ標準軌幅ニテ布設ス  
ル際日露合資ヲ認ムルコト

ノ三者其ノ一ニ關シ露國側ニ於テ希望スルニ於テハ滿鉄ハ  
互讓妥協ノ精神ニ依リ之ニ對シ友好的態度ヲトルニ吝ナラ  
サル次第ヲ仄カスコト之ナリ尤モ本項ニ付テハ自分トシテ  
ハ今直ニ滿鉄ヲ代表シテ決定の返事ヲナスヲ得ス何レ帰  
連ノ上社議ヲ纏メテ更ニ明白ナル御返事ヲ申上クヘシ  
又之カ実行方法トシテ既ニ御承知ノ通露國側ハ鐵道計畫ニ

ヲ鄭白線ノ延長トシテ建設スルニ付滿鉄側ヨリ借款ヲ得  
度旨正式ニ申出テ來レルモ鄭白線ハ元來滿鉄及支那中央  
政府間ノ契約ニ依リ布設セラレタルモノナルニ今張作霖  
個人ニ對スル借款ニ依リ之ヲ延長線ヲ布設セシムルハ面  
白カラスト認メ右申出ヲ直ニ承知セサル考ナルカ奉天側  
ト協議ノ上中央政府ノ承認ハ奉天側(若クハ滿鉄側)ニ  
於テ責任ヲ以テ之ヲ取付ヘシトノ條件ノ下ニ於テナレハ  
之カ借款ニ応シ差當リ工事ニ着手スルモ差支ナキ様思考  
セラル或ハ右承認取付方實際上困難ナリト認メラルル場  
合ニ於テハ本線ハ之ヲ鄭白線ノ延長線トナス全ク別個  
ノ線トシテ布設セシメ之ニ對シ奉天側ハ資金ヲ貸付又ハ  
請負契約ヲナスモ亦一方法ナルヘシ尚本線ハ此際之ヲ林  
西迄延長スルコト可然ト認メラルト述ヘタルニ付  
木村局長ハ白音太拉開魯線ニ關シテハ既ニ大正十四年九  
月二十四日安広社長ニ對シ右ハ大体差支ナキ様認メラル  
ル旨ヲ答ヘ置キタルカ本線ヲ鄭白線延長線トナスモ別個  
ノ線ト為スモ共ニ中央政府ノ承認ヲ取付クルコト絶対ニ  
必要ナルニ付右ハ予メ御含置アリタシト答ヘタリ

四、新邱新台子線、大藏理事ハ將來撫順炭ハ之ヲ日本内地

用トシテ輸出シ滿州用トシテハ新邱炭ヲ使用スルコト可然ト思考シ居レル処本線ハ右新邱炭ヲ搬出スヘキ運炭鐵道ニシテ滿鉄本線ノ新台子駅ニ接続スヘキモノナリ尤モ本鐵道ハ京奉線ノ一部ト併行線タル關係上滿鉄側ヨリ之ヲ申出スルコト面白カラサルニ付追テ新邱炭鉱ニ關スル權利ノ全部ヲ滿鉄側ニ於テ取得シタル場合ニハ(目下新邱炭区中滿鉄側ハ日支合弁大新公司ノ名義ニテ鉱区試掘權ヲ有シ居レリ)總理ニ楊宇霆ヲ載キ督弁ニ鎌田ヲ置キ、楊宇霆ヨリ滿鉄ニ對シ本鉱山ニ有利ナル新邱新台子線布設ノ話ヲ持掛クル様セシメ度考ナリト述ヘタリ

五、吉会鐵道、大藏理事ハ外間ニ於テハ滿鉄ハ大連ノ繁榮若ハ滿鉄ノ利益ノミヲ懸念シ国防其他ノ点ヨリ重要ナルヘキ本線ノ布設ヲ忌避シ居レリトテ非難スルモノアルモ右ハ全ク誤解ニシテ滿鉄ニ於テハ何等カカルコトヲ顧慮シ居レル次第ニ非ス滿鉄側ノ差当リ本鐵道布設ヲ躊躇シ居レル理由ハ

(イ)飯田關係既設輕便鐵道ノ問題 即現在ノ天図輕鉄ノ処分方ニ關シ支那側又ハ帝國政府ハ到底之ヲ買収又ハ補償スルヲ肯セサルヘク去リトテ滿鉄ニ於テ之ヲ引受ク

金ナルニ付既得權以外ノ線ニシテ目下緊急布設ヲ要スルモノノ為メニ之ヲ使用シ度キ次第ナリト述ヘタリ  
右ニ對シ木村局長ハ吉会線ハ吉林省ノ材木輸送等ニ依リ經濟上モ有利ナル線ナルノミナラス鮮人警備ノ關係上モ大ニ有益ニシテ吉敦線ノ完了後直ニ着手スルヲ要シ且ツ吉林官民モ昔日ノ如ク反對セス却テ促進說盛ナル今日ヲ以テ最好機ナリト信ス

要スルニ問題ハ飯田關係ノ輕鉄其ノ他ノ權利買収ニアリ而モ其費用タルヤ二百万円位ナルヘク且右買収ノ結果半額ニ付テハ吉林側モ利益ヲ受クヘク困難ナル問題ニ非スト思考ス右資金ヲ孰レヨリ供給シ又ハ低利資金ノ処分ヲ如何ニスルカノ具体案ヲ立ツルコトニヨリテ解決スヘシ唯滿鉄ニ於テ右ノ金額タモ支弁スルノ余地ナシト云ハルルナラハ別ニ考究スヘシトシ他日ノ考慮ニ讓レリ

六、四洮鐵道公債問題、大藏理事ハ本問題ニ關シテハ曩ニ滿鉄森理事ヨリ何等申出テタル筈ナルカ其際木村局長ヨリノ說示ニ從ヒ同理事ハ其後内閣方面ノ意見ヲモ求メタルカ目下銀行側ニ於テ支那關係ノ公債ニハ絶対ニ応セサ

ルコトハ御免蒙リ度  
(ロ)軍部ニ於テハ對米露策戰上本線ノ重要ナルヘキコトヲ力說スルモ右主張ハ日本カ米國並露國ト同時ニ開戦シタル場合對島海峡並樺太方面ノ通路ヲ扼シ日本海ヲ内海ノ如クニシ自由ニ大陸ノ物資ヲ輸入シ一方米國ニ對スルト共ニ他方兵ヲ滿蒙ニ出シ露國ニ對スルノ必要上朝鮮鐵道一本ノミニテハ充分ナラサルニ付本線ヲ布設スルコト緊要ナリト云フニアルモ日、露、米ノ關係ハ目下夫レ程迄ニ緊張シ居レリトハ認め難ク旁々本鐵道ノ如キハ追テ適當ノ時機ヲ待チテ布設スルモ遅カラスト思考セラル

(ハ)本鐵道ハ日本ノ既得權ニ屬スルヲ以テ日本トシテハ如何ナル支那側ノ政權ノ下ニ於テモ本線ニ關シ主張ヲ為シ得ヘキ処滿蒙ニ於テハ經濟上其ノ他ノ理由ニ依リ緊急布設ヲ利トスヘキ新線多ク而モ之等ハ今張作霖政權ノ下ニ於テ布設許可ヲ得ルニ非サレハ將來布設困難ナルヘキ惧アルモノナリ

(ニ)滿鉄側ノ資金モ現金關係ハ余リ榮ニ非ス有リ余ル資金ヲ用フルナレハ兎モ角、苦シキ算段ヲシテ捻出シタル

ル為事實上公債發行ハ困難ナリト認め先日歸滿セリト述ヘタリ

七、鐵道連絡問題、大藏理事ハ本問題ニ付左ノ如ク述ヘタリ

(イ)滿鉄、四洮、洮昂三連絡問題、本件ニ關シテハ曩ニ本年三月十日大連ニ於テ滿鉄主催ノ下ニ開催セラレタルモ洮昂代表ノ不当ナル要求ノ為ニ決裂シタルモノナルカ其後右洮昂代表ノ意見ハ洮昂鐵路局長ノ意見トハ全然異ルコト判明セリ從テ本件連絡會議ハ最近ニ於テ全ク新ニ開催スル筈ナリ

(ロ)奉海、南滿連絡會議、本會議モ近ク再開セラルヘキ筈ナリ

(ハ)東支南滿連絡會議、東支側ニ於テハ新線計画問題ニ觸ルルニ於テハ運賃協定商議ニ応セントスルモノノ如シ尚現行烏蘇里、南滿州鐵道運送數量協定ハ七月一日迄ニ廃棄ヲ通告セサレハ自動的ニ明年九月三十日迄繼續スルコトトナリ居レリ

大正十五年七月滿蒙鐵道問題ニ關スル木村重細重

局長ト滿鉄大蔵理事トノ会談要領(第三回会談)

大正十五年七月二十九日滿鉄大蔵理事木村亜細亜局長ヲ來訪シ前回並前々回ノ会談(七月十七日並七月二十二日)ニ引續キ滿州鐵道問題ニ関シ大要左ノ通り会談セリ(会談ニ先チ大蔵理事ハ前回(七月二十二日)会談要領ニ付二、三字句ノ訂正ヲナシタリ)

一、齊昂鐵道ノ東支線横斷ト其代償ノ問題

木村局長ハ先ツ前回会談ニ於テ大蔵理事カ齊昂線横斷ノ代償トシテ或ル場合ニハ露国側ニ許容スルモ可ナルヘシトテ挙ケタル三案中ノ一タル「齊昂鐵道延長線又ハ呼海鐵道延長線ヲ標準軌幅ヲ以テ布設スルニ対シ日露合資ヲ認ムルコト」ニ関シ右ハ露国側ニトリ余リ有利ナリト認メラレス從テ give and take ノ問題トハナリ難キ様認メラルルニ付結局問題ハ其他ノ二案即東支線ノ南方ノ二線ノ内其一ヲ容認スルヤ否ヤノ点ニ歸スヘシト思考セラルト述ヘタルニ大蔵理事ハ齊昂線ノ齊々哈爾以北延長線ノ如キハ經濟上ヨリハ大シテ有利ナリトモ認メラレサルモ露国トシテハ其國境ニ近ツク呼海延長線若ハ齊昂延長線ニ対シテハ相当利害ヲ感スヘキヲ以テ右ニ延長線モ優ニ give and take ノ対象

タリ得ヘシト述ヘタリ

二、吉会鐵道 木村局長ハ本線ニ関シ前回会談ニ於ケル大蔵理事ノ説明ニ依レハ結局滿鉄側ハ資金不足ナルカ故ニ差當リ本線實現困難ナリトノ意見ナルカ如キ処政府又ハ銀行團等ニ於テ右資金ヲ調達スルコトハ不可能ナルヘキモ吉林省南部ニ於テ利害關係ヲ有スル藤原(銀次郎)門野(幾之進)等ノ諸氏ハ相当本鐵道ノ實現ヲ希望スル次第第二付或程度迄右資金拠出方ヲモ承諾スルカ如ク察セラルルモ滿州ニ於ケル鐵道ハ滿鉄ニ於テ之ヲ統一經營スルコトアラユル關係上得策ナルニ依リ本線モ滿鉄ノ手ニ依リ急速實現方取計ハレ度ト述ヘタルニ大蔵理事ハ滿鉄ハ現金關係ニ於テハ決シテ楽ナラサル現状ナルヲ以テ政府ニ於テ吉会線建設資金ニ付相当考慮セラレ且飯田氏ノ關係ヲモ或程度迄整理シ呉ルルニ於テハ滿鉄トシテモ本線實現ニ対シ異議アル次第ニハ非ルモ元來本線ハ吉敦線完成後之ニ取掛ルヘキモノナルニ付少クトモ今ヨリ二年半後ノ問題ナルノミナラス吉林省方面ニ於テモ目下専ラ長大線並五常線ノ實現ニ熱心ニシテ吉会線ヲ顧ミス從テ今日ハ吉会線問題ヲ持チ出スヘキ時期ニ非ルカ如ク思考セラルト述ヘタルニ付

木村局長ハ吉敦線完成ノ曉ハ吉林省側モ鐵道ノ便益ヲ知リ吉会線ニ対シテモ昔ノ如ク反対セサルヘシ故ニ適當ノ機会ニ於テ交渉スレハ案外容易ニ解決スヘシト思考セラル要スルニ問題ハ今直ニ吉会線計画ヲ實現セントスルニアラス唯適當時期ニ於テ本鐵道ニ關スル交渉ヲ開始スヘシトノ方針ヲ今ヨリ決定シ置キ今後ハ其ノ方針ニテ進マントスルモノナリ然ルニ滿鉄側ニ於テハ本問題實現ノ障害トシテ飯田關係ノ整理困難ヲ指摘セラルルカ如キモ右ハ天國輕鐵公司ノ投資額ニ対シ支那國庫証券ヲ付与スレハ足り何等現金ヲ与フルコトヲ要セサルヘク然モ右投資額ノ半分ハ支那側ノ負担スルトコロナレハ右ニ対シ吉林省側ニ大ナル反対アルヘシト認メラレス

又大正七年吉会鐵道契約ニ基ク前貸金一千万円ハ既ニ政府ニ於テ肩代リシタル次第ナルニ付之亦本鐵道實現ニ対スル障害タリ得サルヘシ故ニ當方ニ於テハ滿鉄カ本線實現ヲ躊躇シ居レルハ結局資金ノ問題並本件ニ關スル支那側トノ談判相當困難ナルヘシトノ憂慮ノ二点ニ過キスト認メ居レル処滿鉄ニ於テハ本件ニ關シ右以外何等特別ノ反対理由アリヤト問ヒタルニ

大蔵理事ハ滿鉄ノ云ハント欲スルコロハ右二理由以外ニ前回モ述ヘタル如ク本鐵道ハ日本ノ既得權ニシテ從テ如何ナル政權ノ下ニ於テモ主張シ得ヘキモノナルニ反シ他ノ計画線ハ張作霖ノ好意ニ依ルニ非サレハ布設シ難キモノナルノ点ニアリ即例ハ通遼林西線ト吉会線ト其交渉ニ付同様ノ困難アリトスレハ此際林西線ヲ先ニスル方宜敷様思考スル次第ナリ飯田關係ノ天國輕鐵整理ノ問題ニ関シテハ自分トシテハ之ヲ重大視シ居ラス夫ヨリモ寧ロ社内ノ金融ノ事ヲ心配シ居レリ即滿鉄ハ目下外債ハ許サレス内債ハ最近二回共銀行團ニ於テ其半額ヲ背負込ミタル様ノ状態ニアリ從テ前回ニモ述ヘタル如ク此際苦シキ工面ヲシテ調達シタル資金ハ成ルヘク之ヲ我方既得權以外ノ有利ナル線即目下ノ奉天政權ト露国側ノ疲弊セル実状ノ下ニ於テニ非レハ布設シ得サル如キ線ノ實現ニ使用シ度キ希望ナリ尚又飯田關係ノ整理ニ要スル金ハ結局吉会線ノ籌備費ヲ以テ之ニ充ツルコトナルヘキモ右ニ対シテハ支那側カ到底承諾セサルヘク(今迄此種ノ金ハ支那側ノ手ニ入リタルニ付支那側モ之ヲ承諾セシカ本件ノ場合ハ之ト異リ飯田ノ手ニ入ルヘキヲ以テ支那側ノ承諾ヲ取付クルコト困難ナリ)

サレハトテ之ヲ暗ヨリ暗ニ葬リ去ルコトモ出来ス困難ナル問題ナリト述ヘタルニ付

木村局長ハ林西線等ヲ先ツ布設スヘキコトハ自分モ私見トシテハ之ヲ認メ居レリ又飯田關係ノ整理ニ関シテハ曩ニモ述ヘタルカ如ク天國公司投資額ニ就キテハ之ニ相当スル支那國庫証券ヲ付与スレハ足ルヘキニ付結局問題ハ飯田從來ノ關係等ニ顧ミ若干ノ涙金ヲ与フヘキノ点ニ帰着スル処右金額ハ極メテ小額ニテ足ルヘキニ付大藏理事ノ説明セラレタル籌備費云々ノ点モサシタル問題ニハ非サルヘシ要之大藏理事ニ於テモ吉会線ニ対シ根本的反対ハナク林西線長大線ノ次ニハ吉会線ノ実現ニ努力スルコトニ付異存ナキモノト認メラル果シテ然ラハ吉会線実現ノ手順トシテ大体吉敦線完成前一年位ノ時期（即ヨリ一年半後）ニ於テ支那側ニ対シ吉会線ノ交渉ヲ開始スルコトトシ以テ吉敦線完成ト同時ニ直ニ會寧延長線工事ニ着手シ得ル様手筈ヲ整ヘ置クコト得策ト思考セラルル処右ニ付滿鉄側ノ意向如何ト尋ネタルニ

大藏理事ハ吉会線実現ニ関シテハ自分モ主義上異議アル次第ニハ非ス又右吉会線並現存ノ滿鉄本支線ニ依リ事実上朝

木村局長ハ御話ノ趣了承セリ要之滿鉄ニ於テハ林西、長大兩線ノ次即今後第三番目ニハ必ス吉会線ニ着手スルコトニハ異存ナキ処ト思考ス又吉会線ノ交渉ニ関シテハ滿鉄側ニ於テ御説明ノ如キ困難アリトスレハ原則トシテ今ヨリ一年半後ニ於テ支那側ニ対シ本件交渉ヲ開始シ吉敦線完成後直ニ會寧延長線工事ニ着手シ得ル運ヒトナス予定トシ置キ唯右一年半後ニ於テ更ニ各般ノ状況ヲ考慮シ若シ林西、長大、吉会三線ノ工事重複スルカ如キ実状ニテ事実上吉会線ニ着手スルコト困難ナリト認メラレタル場合ニハ改メテ外務省側ト協議スルコトトナシ置カハ如何軍部側ニ於テ本件緊急実行説多キニモ鑑ミ此際右ノ点ヲ判然セシメ置クコト肝要ト信スト述ヘタルニ

大藏理事ハ一年半後ニ必ス交渉ヲ開始スルニ非スシテ一年半後ノ状況ニ応シ其時ノ滿鉄ノ經濟並政府側ノ援助ノ有無如何ヲ考慮シ外務省側ト協議ノ上或ハ交渉ヲ延期スルコトアルヘシトノ了解ノ下ニ於テナレハ自分一個トシテハ右木村局長ノ述ヘラレタル処ニ全然賛成スルモノナリト答ヘ尚同理事ハ全然自分一個ノ私見ナリトテ滿蒙鐵道計画ノ順序ニ付左ノ通り述ヘテ辞去シタリ

鮮國境ヲ滿州中部迄拡張スルノ効果ヲ挙クヘシトノ説ニモ自分トシテハ賛成ナルカ唯吉会線ノ實現ニ付テハ前ニモ述ヘタル如ク結局(イ)資金(ロ)順序ノ二問題ヲ考慮スルヲ要スル処右ノ中(ロ)順序ニ関シテハ今貴局長ノ御話ノ如ク之ヲ林西線及長大線ノ後トスルニ於テハ自分トシテハ異議ナシ然ルニ(イ)資金ノ問題ニ関シテハ曩ニ貴局長ノ述ヘラレタルカ如ク本鐵道ニ關スル交渉ヲ必ス一年半後開始スヘシトスル時ハ右交渉ノ模様ニ依リテハ或ハ林西線及長大線ト（之等ノ鐵道ニ關スル商議ハ目下進行中ナルモ未タ決定ニ至ラス從ツテ何時工事ニ着手ノ運ヒトナルヤ予言シ難キ次第ナルニ付）其工事ノ時期重複スルヤモ計ラレス然ルニ滿鉄トシテハ林西線並長大線ニ関シテハ万一同時ニ之等ノ工事ヲ行フヲ要スヘキヲ慮リ予メ右二線ニ要スル資金ニ就キテハ融通ノ見込大体立チ居レルモ若シ林西、長大兩線ニ加ヘテ吉会線工事ヲモ同時ニ行フコトトナラハ到底資金繰リノ都合付キ難シ旁々明確ニ今ヨリ一年半後ニ於テ吉会線ノ交渉ヲ開始シ吉敦線完成ト同時ニ工事ニ着手スヘシトノ趣ヲ今日御約束シ置クコトハ滿鉄トシテハ到底不可能ナル次第ナリト述ヘタルニ付

（大藏理事私案）

滿蒙鐵道計画順序

第一（本項各線ニ付テハ予メ順序ヲ定メス支那側トノ交渉纏リタルモノヨリ着手シユク筈ナリ）

長春大賓線白音太拉開魯林西線、呼蘭海倫線、齊々哈爾昂々溪線（尤モ本線（齊昂線）交渉遅延ノ場合ト雖之ヲ以テ吉会線着手ノ障害トハナササル積ナリ）

第二（括弧内ノ数字ハ第二次計画線中ノ布設順序ヲ示ス）

- (一) 吉林會寧線
- (二) 吉林五常線（哈爾賓ニ至ル）
- (三) 洮南索倫線
- (四) 呼海延長線

第三（括弧内ノ数字ハ布設順序ヲ示ス）

- (一) 長大延長線（齊齊哈爾ニ至ル）
  - (二) 齊昂延長線
  - (三) 索倫延長線
- 別ニ 新邱新台子線（運炭鐵道）

(以上三回ヲ以テ本件会谈ヲ終ル)

## 三、亜細亞局私案滿蒙鐵道計画ニ関スル方針

滿蒙鐵道計画ニ関スル方針

外務省亜細亞局私案

## 第一、呼海鐵道並齊昂鐵道ニ関スル件

東支線以北ニ於ケル滿州鐵道布設ニ関シテハ露国側ノ感触特ニ鋭敏ナルモノアルニ付我方ニ於テ同地方ニ於ケル鐵道計画ニ干与スルニ当リテハ慎重考慮ヲ要スルモノアリ從テ我方ニ於テ適宜支那側ヲ指導シ露国側ヲモ利益シ得ヘキ方法ニ依リ妥協の事ヲ進ムルヲ得策トス如上ノ見地ニ基キ本件兩鐵道問題ヲ考察スルニ

(編註)

一、呼海鐵道ハ本鐵道ハ元來東支線ノ彼方ニ偏在シ東支鐵道南支線ヲ經由シテ始メテ滿鉄側ニ於テ利用シ得ヘク寧ロ東支線ノ榮養線トシテ重要ナルヘク既ニ東支鐵道側ニ於テモ之ニ着眼シ布設ニ努力シ又露亜銀行ハ夙ニ寶黒線トシテ借款優先權ヲ設定セルモノナルヲ以テ右線カ東支鐵道支線トシテ五呎ノ軌幅ヲ以テ實現ヲ見ルニ於テハ將來北滿ニ對スル我方ノ發展上重大ナル障礙トナル虞アリ從

テ從來我方ニ於テハ東支側ニ依ル寶黒線實現防止ノ趣旨ヲ以テ支那側ノ標準軌幅ニ依ル松浦呼蘭間鐵道布設ヲ援助シ來レル次第ナルカ右松浦間十數哩ノミヲ以テシテハ將來本線ノ延長線ニ對スル軌幅ヲ支配スルニ不十分ノ感アル一方呼蘭綏化間七十餘哩ノ延長線ハ其終点既ニ北滿ノ豊庫ニ達シ南滿鐵道ノ榮養線トシテモ多大ノ利益ヲ擧ケ得ヘキ見込ナルノミナラス本線ハ元來吳俊陞自身ノ出資建設ニ係リ滿鉄ハ之ニ對シ単ニ材料売込契約ヲナシ而カモ現金売買ヲナスニ過キサルヲ以テ支那側ト露亜銀行側トノ間ノ問題ハ別トシ滿鉄ニ對シテハ同銀行ヨリ抗議シ得ヘキ筋合ニアラサル處露国側ニ於テモ滿鉄カ何等右以上之ニ關係シ居ラサルヲ知り且ハ本線カ東支線ヲモ潤スヘキコトヲ思ヒ別段本件計画ニ對シ反對シ居ラサル趣ナリ尤モ本線今後ノ延長線ニ至リテハ滿鉄ノ貨物吸集策ヨリ云フモ特ニ必要ナラサル處北方露国境ニ近クニツレ同国側ノ危惧ヲ増大スヘキノミナラス露亜銀行トノ關係モ漸次紛糾セサルヲ得サル次第ナリ

二、齊昂鐵道 支那側ニ於テハ昂々溪齊々哈爾間現在ノ輕便鐵道ヲ標準軌幅ニ改造シ以テ洮昂鐵道ニ接続セシメン

トスル熱心ナル希望ヲ有スル趣ニシテ右計画ノ實現ハ我方ノ等シク切望スル所ナルモ露国側ニ於テ此種東支橫斷

(編註)

ノ露国側ニ及ス影響ニ顧ミ同国乃至借款團關係国ト共同シテ之カ實現ニ関与スルコトト致度

計画ニ對シ強硬ニ反對スヘキコトヲ想像スルニ難カラス從テ今後支那側ニ於テ本件計画ヲ進ムルニ當リテハ露国側ニ對シ何等交換的ニ滿州ニ於ケル鐵道計画ニ付利益ヲ提供スルノ必要ヲ認ムルニ至ルヘク而シテ右提供セラルヘキ利益カ我既定若ハ予定ノ線路計画ニ重大ナル利害關係ヲ有スルコトアルヘシ故ニ本件鐵道計画ニ對スル支那側ノ態度ハ特ニ注意ヲ要スル處帝國政府又ハ滿鉄ニ於テ本件計画實現ニ直接關係スヘキ筋合ニ非サルヲ以テ支那側ヲ裏面ヨリ德憑シテ露国殊ニ東支側ト互讓妥協ニヨリ殊ニ利益提供ヲ以テ可成速ニ本計画實現ヲ期スルノ要アリ

## 以上考慮ノ結果

一、呼綏線ニ関シテハ別ニ重大ナル外交問題ヲ惹起スルノ虞ナキノミナラス既ニ滿鉄側ニ於テ支那側トノ間ニ材料現金売込契約ヲ締結シ居レコトニモアリ同社ノ支那側ニ對スル立場ヲモ考慮シ此際滿鉄ニ於テ右契約ヲ履行スルモ差支ナキコトト致度尤モ本線今後ノ延長ニ付テハ其

二、昂齊線ニ関シテハ其ノ露国側ニ對スル機微ナル關係ニ鑑ミ此ノ際滿鉄幹部ヲシテ全然個人ノ資格ニ於テ裏面ヨリ支那側ヲ指導セシメ我方ニ重大ナル利害關係ナキ新線ニシテ露国側ノ希望スルモノアラハ(例ヘハ一面坡五常線又ハ海林寧古塔線)支那側ニ於テ本線實現ト交換的ニ之ヲ露国側ニ提供スル様仕向ケ以テ本計画ノ實現ヲ促進スルコトト致度

## 第二、長大鐵道ニ関スル件

長春大賚間ノ内長春農安間鐵道ニ関シテハ曩ニ江木内閣書記官長安広滿鉄社長ト会谈ノ結果同書記官長ニ於テ別紙寫ノ通覽書作成ノ上大正十四年六月二十三日之ヲ幣原大臣ニ送付シ來リタルニ付同月二十四日出淵次官ヨリ江木書記官長ニ對シ外務省ニ於テハ右ニ付テハ異存ナキ旨通知シ置キタリ

然ルニ右長春大賚間ノ鐵道計画ハ孫吉長道尹ノ主唱ト滿鉄側ノ側面ヨリノ援助トニ依リ最近大ニ具体化セラレ官商合併ノ私設鐵道ノ形式ニヨリ且土工費ニ付テハ支那側ニ於テ

之ヲ調達シ滿鉄ヨリハ単ニ材料供給其他ノ布設援助ヲナシ  
 之カ実現ヲ見ントスルノ状態ニアリ從テ契約ノ内容又ハ形  
 式共ニ官設線ニ對スル借款又ハ工事請負ノ場合ト異ルヲ以  
 テ從來ノ諸線ノ場合ニ於ケルカ如キ債權確保ノ方法ヲ講ス  
 ルコト實際上困難ナリ旁々前頭ノ如ク長春農安間鐵道ニ関  
 シテハ大正十四年六月二十四日覺書ノ次第ハアルモ長大鉄  
 道計画ニ關シテハ此ノ際之ヲ改メ(イ)標準軌幅ヲ採用シ(ロ)右  
 路線ヲ滿鉄ノ培養線タラシムル様特ニ留意シ且ツ(ハ)本鉄道  
 ニ對スル日本側ノ債權カ確實ナル担保ニ抛リ充分保障セラ  
 ルルニ於テハ如何ナル形式ニ依ル鐵道布設ニ對シテモ滿鉄  
 ニ於テ之ヲ援助促進シ差支ナキコトトシ右ノ趣旨ヲ内閣側  
 ヨリ滿鉄ニ對シ通報シ置クコトト致度

(別紙)

長春太齊間ノ内長春農安間鐵道ヲ私設鐵道トシテ  
 敷設スルノ件

右路線ハ滿鉄ノ培養線トシテ適當ナルモノナルヲ以テ  
 右軌幅ヲ滿鉄同様ト為シ且ツ右債權ノ担保確實ニシテ  
 官設線ノ場合ト同等ナル債權確保ノ方法ヲ立テラルル  
 ニ於テハ大体ニ於テ私線ニ對シ資金貸付又ハ請負契約

ヲ為スモ支障ナキモノト認ム

(本覺書ハ大正十四年六月二十三日江木内閣書記官長  
 ヨリ幣原大臣ヘ送付アリ二十四日出淵次官ヨリ同意ノ  
 旨回答セリ)

第三、吉会鐵道ニ關スル件

吉林會寧間鐵道ノ我國防上經濟上ノ価値ニ於テハ今更絮説  
 ヲ要セス從テ本鉄道ノ急速實現ヲ要スヘキコト言フ俟タサ  
 ル処滿(州)ニ於ケル鐵道ハ原則トシテ滿鉄ヲシテ統一經  
 營セシムルコト可然ノミナラス本件吉会線ノ一部タル吉林  
 敦化間ノ鐵道ハ既ニ滿鉄ニ於テ之カ工事ヲ請負ヒ追テ右吉  
 敦線完成ノ曉ハ之ヲ現在ノ吉長線ト連絡シハ滿鉄ニ於テ經  
 營スルコトナリ居レル(註)次第ナルニ付右吉敦線ニ引続キ  
 敦化ヨリ會寧ニ至ル線ニ付テモ滿鉄ヲシテ之カ實現促進ヲ  
 計ラシムルコト可然但滿鉄ニ於テハ既ニ当方ノ了解ヲ得テ  
 支那側トノ交渉ニ着手セル長春大齊線並白音太拉開魯線及  
 其延長線ノ二線アリ右兩線モ亦經濟上極メテ有利ナルヘキ  
 モノナルノミナラス之等二線ノ敷設地域カ目下張作霖政權  
 下ニアル關係上現在ヲ以テ交渉ノ最好機ト認メララルル処他  
 方吉会線ノ一半タル吉敦線ハ之カ完成ニ今後二年半ヲ要ス

ヘキヲ以テ敦化會寧線ハ右吉敦線完成後引続キ工事ニ着手  
 スルモ遅カラサルヘク旁差當リテハ滿鉄ヲシテ先ツ前頭長  
 大並白開(註)ノ二線ノ實現促進ニ努力セシメ而シテ敦化會寧線  
 ハ右二線ニ引続キ之カ促進ヲ計ラシムルコトト致度即順序

トシテハ敦化會寧線ハ之ヲ長大線並白開線及其延長線ノ次  
 ニ置キ尚実行方法トシテハ原則トシテ今ヨリ約一年半後ノ  
 時期ニ於テ滿鉄ヲシテ支那側ニ對シ本線交渉ヲ開始セシメ  
 以テ吉敦線完成ト同時ニ直ニ會寧延長工事ニ着手シ得ル様  
 手順ヲ整ヘ置クコトト致度尤モ右長大線並白開線及其ノ延  
 長線ノ建設ニハ相當ノ年月ヲ要スヘキ一方右二線ニ關スル  
 交渉ノ模様ニ依リテハ或ハ之等二線並敦化會寧線ノ三鉄道  
 工事ヲ同時ニ行ハサルヘカサル場合モアリ得ヘク從テ之  
 カ工事費ヲ一時ニ抛出スルハ滿鉄トシテモ困難ナルヘキニ  
 付斯ル場合ニ於テハ滿鉄ニ於テ予メ當方ト協議ノ上事情如  
 何ニ依ツテハ右敦化會寧間鐵道ニ關スル交渉開始方ヲ暫ク  
 延期スルモ差支ナキコトト致度尚敦化會寧間ニハ飯田延  
 太郎經營ノ天図輕便鐵道アリ一部本線ト競合シ又ハ並行線  
 タル關係上右權利買収ノ要アリ而カモ右輕便線ハ意外ニ多  
 額ノ經費ヲ要シタルノミナラス其建設費ノ大部分ハ預金部

ヨリ東拓ヲ經テ貸付タルモノニ屬シ之ヲ全部支那側ノ債務  
 ニ振替フルヤ又ハ政府ニ於テ之カ整理方法ヲ別途ニ考究ス  
 ヘキヤ更ニ關係官民間ニ協議ヲ要ス

第四、索倫鐵道ニ關スル件

洮南索倫間鐵道沿線ハ洮兒河流域ニ當リ地味肥沃ナルヲ以  
 テ本線完成ノ曉ハ經濟上ハ收支償フヘシト思考セラルルモ  
 支那側ニ於テ最近特ニ本線實現ニ付焦慮シ居レル理由ハ專  
 ラ(イ)本鉄道借款手取金(若ハ其一部)ヲ一時奉天省財政整理  
 資金ニ振向ケ度希望(ロ)楊宇霆其ノ他ノ奉天軍部側ノ對露策  
 戦上ノ見地並(ハ)奉天日本人顧問側ニ於テ日本陸軍ノ立場ヨ  
 リ支那ヲ對露策戰ニ利用セムトスルノ見地等ノ三点ニアリ  
 ト察セラルル然ルニ我方ニ於テハ鐵道問題ニ藉口シテ前貸其  
 他ノ名義ヲ以テ贈賄ヲナスカ如キハ絶対ニ忌避スルノ方針  
 ナルノミナラス目下日露支三国ノ關係ハ此等軍用鐵道ノ急  
 設ヲ必要トスル切迫セル状態ニアラサルヘク旁々本鉄道ハ  
 此際緊急布設ノ要ナシト認メララルル処他方露國側ニ於テハ  
 索倫鐵道ヲ以テ日本カ支那ヲ使噉シテ建設ヲ企圖スル軍用  
 鐵道ニシテ結局海拉爾迄延長セラルルモノナルヘシト本  
 件計画ニ付危惧ノ念ヲ抱キ居レル次第ニ付此際我方ニ於テ

強イテ本線計画ヲ促進スルニ於テハ無益ニ露国側ノ感情ヲ刺戟スルコトナリ日露間ニ於ケル他ノ問題交渉就中北滿ニ於ケル鐵道問題進捗上ノ障害トナルコトアルヘシ從テ本線布設ノ順序並方法ニ付テハ特ニ慎重考慮ヲ要スル次第ナリ就テハ本件計画実現ハ暫ク之ヲ他日ノ問題ニ譲リ差当リ

(付記一)

大正十五年五月

滿州ニ於ケル鐵道計画現況摘要一覽表

(付 滿州ニ於ケル既成鐵道)

亜細亜局調

目次

一、日本側ノ關係セルモノ

- (イ) 洮齊鐵道
- (ロ) 賓黒鐵道
- (ハ) 長大鐵道
- (ニ) 吉会鐵道
- (ホ) 白開鐵道
- (ヘ) 昂齊鐵道
- (ト) 索倫鐵道
- (チ) 金福鐵道

一、日本側ノ關係セルモノ

(イ) 洮齊鐵道

洮南昂々溪間

一四六哩

備

考

(イ) 洮齊鐵道

本鐵道ノ建設ハ張作霖ノ計画ニ係ルモノニシテ大正十三年九月滿鉄及奉天当局間ニ成立シタル工事請負契約(請負金額約千二百万円)(右契約ハ大正十四年八月支那中央政府ノ正式承認ヲ得タリ)ニ基キ滿鉄ニ於テ十四年六月工事ニ着手シタルカ大正十五年七月頃迄ニハ全線ヲ開通セシムル予定ナリ尚我方ニ於テハ大正十四年七月在米、英仏各大使ヲシテ本件契約ヲ各任国政府(借款團關係國)ニ通告セシメ又大正十五年三月前記各大使ヲシテ各任国政府ニ対シ大正十四年八月本件契約ニ対スル支那中央政府ノ正式承認アリタル旨ヲ通告セシメ同時ニ在支芳沢公使ヲシテ在北京正金代表者ヨリ各借款團代表者ニ対シ本件契約締結ノ事實並本鐵道建設費カ借款ニ切替ヘラルヘキ場合借款團ニ於テ希望スレハ我方ニ於テハ右借款ニ参加ノ方法並ニ条件ニ關シ協議ニ応スヘキ旨通告方取計ハシメタリ

本鐵道建設ニ關シ露国側ヨリハ日支双方ニ対シ右ハ東支鐵道ノ利益ヲ害スルモノトシテ抗議の申出アリタルモ日支兩國ニ於テハ本鐵道カ純然タル支那鐵道ニシテ滿鉄ハ單ニ其ノ工事請負ヲナシタルニ過キサルニ付露国側ノ抗議ヲ受クヘキ筋合ニアラサル旨ヲ回答セリ露国側ハ目下本鐵道沿線ノ貨物ヲ北行セシメ東支西部線ニ吸集セントシ索動シ居ルモノノ如ク(尤モ東支線ハ輸送牽引力少キ為差当リ右ハ實現困難ナリトノ趣ナリ)大正十五年三月十日洮昂、四洮及南滿三鐵道連絡會議カ洮昂線代表ノ專横ナル主張ノ為不調ニ終リタルニ付テモ洮昂線代表ノ背後ニハ露国側ノ運動アリトノ噂モ存ス

他ノ經濟上有利ニシテ且問題ヲ惹起スルノ虞少キ線ヨリ着手シ行クコトト致度

編註 各編註個所及ビハ V 内ノ個所ハ後掲「付記二」ノ如ク訂正アリ

(ウ) 敦化寧古塔鐵道

(カ) 吉海鐵道

二、露国側ノ關係セルモノ

(イ) 安拜鐵道

(ロ) 密穆鐵道

(ハ) 海寧鐵道

(ニ) 扶余石頭城子一面坡方正間鐵道

三、主トシテ支那側ノ計画ニ係ルモノ

(イ) 奉海鐵道

(ロ) 開海鐵道

(ハ) 大虎山白音太拉間鐵道

(ニ) 錦朝鐵道

(ホ) 朝赤鐵道

四、借款團ノ共同事業ニ提供セラレタル鐵道計画

付 滿蒙ニ於ケル既成鐵道

(d) 寶黑鐵道

哈爾濱寶黑河齊々哈爾  
間  
全線六四五哩  
海倫呼蘭間一五一哩  
呼蘭馬家船口間約十  
數哩(六十支里)

(d) 寶黑鐵道(呼海線)

大正十三年四月頃黑龍江省督弁吳俊陞カ呼海線布設計画ヲ有スルコト伝ヘラルルヤ日露双方ノ當業者ハ競ツテ之カ建設ニ当ランコトヲ運動シタルカ結局大正十四年夏張作霖ハ(イ)本鐵道ヲ純然タル支那鐵道トスルコト(ロ)標準軌幅ノ採用(ハ)外資ヲ入レサルコト等ノ條件ヲ以テ敷設認可ヲ与ヘタリ依ツテ吳ハ官商合弁資本金七百五十萬元ノ呼海鐵路局ヲ創設シ先ツ松浦(旧名馬家船口)呼蘭間(十數哩)ノ建設準備中ナリ然ルニ露亜銀行ニ於テハ右ハ其支那政府トノ間ニ有スル大正五年締結寶黑鐵道借款契約上ノ權利ヲ侵害スルモノトシテ大正十四年八月支那交通部ニ抗議ヲ申入レタル処同年九月支那政府ニ於テハ右ハ露亜銀行カ速カニ該契約ノ履行ヲ為ササル結果地方官憲ニ於テ之ヲ布設スルニ至リタルモノニシテ止ヲ得サル所ナリトノ回答ヲ為セリ

他方滿鉄ニ於テハ大正十四年十月黑龍江省官憲トノ間ニ松呼鐵道建設材料供給契約ヲ締結シタル処右ニ對シ大正十四年十一月露亜銀行側ハ正金ニ對シ前記寶黑鐵道借款契約ヲ指摘シ滿鉄ノ処為ニ對シ苦情ヲ申立テ同時ニ此際該契約上ノ權利ヲ相當ノ報酬ヲ得テ日本側ニ讓渡シ度旨ヲ申出テタルヲ以テ我方ニ於テハ大正十四年十二月滿鉄トモ協議ノ上在支公使ヲシテ正金ヨリ露亜側ニ對シ(イ)滿鉄ハ單ニ露國側ノ索動ヲ牽制スル為本件契約ヲ締結セルコト(ロ)本鐵道ニ關スル權利讓受ニ付テハ滿鉄ニ於テ追テ支那政情安定ノ時期ヲ俟チ之ヲ考慮スルヤ否ヤニ付相談致度トノ意向ナル趣ヲ通告セシメタリ然ルニ其後大正十五年四月滿鉄ニ於テハ支那側ト呼海線第二段計画タル呼海線ニ付材料供給契約ヲ締結シタル趣ナル処右ハ各方面ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナルニ付大正十五年五月我方ニ於テハ滿鉄ニ對シ暫ク右契約実行延期スヘキ旨ヲ電報セリ

(イ) 長大鐵道

長春扶余大賚間  
(差当リハ長春農安間)  
長春農安間三五哩  
長春扶余間九五哩  
長春大賚間 哩

(イ) 長大鐵道

本鐵道ハ滿蒙四鐵道ノ一タル長洮線ノ一部ナルカ滿鉄ニ於テハ伯都納附近農產物吸集ノ為本鐵道ノ敷設ヲ希望シ大正十三年末右敷設ニ關シ奉天官憲ノ諒解ヲ取付ケタルモ吉林省長王樹翰カ外資ニ依ル本鐵道ノ建設ヲ認可セサルヲ以テ大正十四年夏滿鉄ハ表面同地方民(石同華外七名)ノ發起ニ依ル資本金二百五十萬元ノ株式会社ヲ建設ヲ斡旋シ同社ヲシテ王省長ニ對シ長春農安間ノ線路布設ノ認可ヲ申請セシメタルトコロ王省長ハ同会社ノ資本ニ外資ノ混入セルヲ疑ヒ認可ヲ与ヘス從テ本件計画ハ目下行惱中ナルカ滿鉄ニ於テハ將來之ヲ東支線安達駅ニ結ヒ更ニ東支線ヲ橫斷シ安達ヲ經テ拜原ニ至ラシメントスル計画ナルカ如シ(安達拜原間ハ目下露國側ニテモ計画ナリ)

(ニ) 吉会鐵道

吉林會寧間二六二哩  
差当リ吉林敦化間  
(吉敦間一三五哩)

(ニ) 吉会鐵道

大正七年所謂西原借款ノ一トシテ日本興業銀行ト支那政府トノ間ニ本鐵道借款予備契約締結サレ前貸金一千万円交付セラレタルモ運輸會計兩主任問題ニ關シ日支間ノ意見一致セサル等ノ為本鐵道ノ建設計画ハ未タ實現セラルルニ至ラサリシカ大正十四年十月二十四日滿鉄ハ張作霖側ノ諒解ヲモ得タル上支那中央政府トノ間ニ吉敦鐵道建設請負契約ヲ締結シ差当リ吉林ヨリ敦化迄ノ延長線工事ヲ引受ケ(契約内容(イ)工事費一千八百万円(ロ)調印後一年內ニ起工シ二年間ニ完成ス(ハ)日本人技師長及會計主任聘傭(ニ)本線ハ吉会線ノ一部ト見做シ本線工事完成後吉長線ト共同經營ヲ為ス等)大正十五年二月路線ノ実測ニ着手シタリ

(ホ) 白開鐵道

白音太拉開魯間五三

(ホ) 白開鐵道

本鐵道ハ四洮鐵道支線鄭白線ノ延長ニシテ支那側ニテハ大正十五年度ヨリ本鐵道敷設ニ着

哩

(イ) 昂齊鐵道

齊々哈爾昂々溪間  
(輕便鐵道) 一八哩

(ロ) 索倫鐵道

洮南索倫間  
約一三六哩

(ハ) 金福鐵道

金州貔子窩間  
約六〇哩

(ニ) 敦化、額木素、寧古塔間

(ホ) 吉海鐵道

吉林海龍間

二、露国側ノ計画セルモノ

(イ) 安拝鐵道

安達拜泉間  
約一一七哩(一八九九)

(ロ) 密穆輕便鐵道

穆稜密山間約百哩  
穆稜駅穆稜炭坑間約二四哩(六〇露里)

(ハ) 海寧鐵道

海林寧古塔間  
約一四哩

(ニ) 扶余、石頭城子一面

坡間鐵道  
(扶余、石頭城子間  
約六十六哩)

手スル意向ヲ有シ鄭白線敷設ノ場合ニ準シ滿鉄ニ対シ右建設費三百万円借款方ヲ申出タルニ付滿鉄ニ於テハ之ニ応シ且工事ヲモ引請クル意向ナル趣ナリ

(イ) 昂齊鐵道

露国側ニ於テハ現存ノ昂齊輕便鐵道ヲ五呎ノ軌幅ニ改築シ以テ洮齊線トノ連絡ヲ妨ケムトスル計画ヲ有シ大正十四年ノ交ニ於テ吳黑龍江省督弁ニ本線買収方ヲ申出テタルモ吳督弁ハ全然之ニ反對シ右申出ヲ拒ケタル趣ナルカ他方張作霖ト滿鉄側トノ間ニハ既ニ本線ヲ買収シ洮齊線ノ延長トナスコト並右延長線ノ東支線横斷ノ件ニ付諒解済ナリトノ趣ナリ

大正十五年四月張作霖ハ吉田総領事ニ対シ洮南索倫間鐵道建設ノ為日本側ヨリ内密ニ二千万円乃至四千万円ノ借款ヲ得タキ趣ヲ申出テタルモ本鐵道ハ寧ロ不急ノ線ナルニ鑑ミ我方トシテハ此際之ニ応スルヨリモ寧ロ長大線等經濟上モ有意義ナル鐵道計画ノ實現ヲ促進スルコト得策ト認メラル

本鐵道ハ關東州内金州ヨリ貔子窩ニ達スルモノニシテ将来ハ安東迄延長セラルルニ至ルヘシ既ニ路線実測ヲ了シ目下建設工事中ニシテ大正十六年度内ニハ竣工ノ予定ナル趣ナリ

滿鉄ニ於テハ将来本鐵道ノ實現ヲ期スルカ如キモ目下別段本計画ニ付具體的進捗ヲ見サルカ如シ

大正十四年我方ニ於テハ滿蒙四鐵道ノ一タル吉開線(吉林海龍開原間)ノ一部タル開原海龍間ノ鐵道ニ対スル權利ヲ放棄シタル結果(後頭)吉林海龍間鐵道ニ対スル權利ノミ殘存セル次第ナリ

(イ) 安拝鐵道

本鐵道ハ東支本線安達ヨリ拜泉(又ハ海倫)ニ至ラントスルモノニシテ有望ナル東支培養線ト認メラレ支那側及露国側ニ於テ建設計画アリ殊ニ露国側ハ純然タル露国鐵道トシテ敷設シタキ希望ヲ有スルモ支那側ハ之ニ反對ナル由ナリ

(ロ) 密穆輕便鐵道

露国側ハ東支本線穆稜駅(下城子回避駅)ヨリ穆稜炭山ニ至ル六十露里ノ既設輕便鐵道ヲ更ニ延長シテ密山ニ達セシメントスル計画ヲ有スルモ未タ何等具體的進展ヲ見サルカ如シ(他方滿鉄ニ於テモ将来敦化ヨリ寧古塔ヲ經テ密山迄達スル鐵道ヲ予定計画中ニ入レ居レリ)

(ハ) 本鐵道ハ支那地方民(寧海農務會長孫彥卿等)ノ計画ニ係リ既ニ大正八年測量ヲ終リタルモ資金ノ關係上未着手ノ状態ニアリシカ大正十四年夏ニ至リ孫等ノ熱心ナル奔走ニ依リ漸ク具体化シ資金ハ地方民ヨリ募集シ材料ハ東支鐵道ヨリ供給ヲ受クルコトシタル趣ナルカ未タ実行サルルニ至ラス

(ニ) 扶余、石頭城子間

本線ハ目下同地方支那資本家間(在扶余韓瀛州等)ニ資本金百二十五萬元ヲ以テ敷設計画進行中ニシテ既ニ沿線ノ測量ヲ完了シタル趣ナルカ東支鐵道側ハ本線ヲ以テ滿鉄ノ計画セル長大線ニ對抗シ北滿貨物ノ南下ヲ防止セントノ意向ヲ有スル如ク頻リニ本件計画ノ實現

(二) 石頭城子、榆樹間

ニ助力シ現ニ本線ニ付東支側ヨリ材料供給ヲ為スコトニ關シ商議中ナル由ナルカ吉林省長ハ露國側ノ援助アル本件計畫ニ反対ナル趣ニテ從テ之カ實現ノ能否モ未定ナルトノコトナリ

(二) 石頭城子—榆樹間

本線ハ前記扶石鐵道ノ延長線トシテ支那地方民ノ計畫スル所ニシテ露國側ハ陰ニ之カ實現ヲ援助シツツアルモ吉林省当局ハ本鐵道敷設資金中ニ露資混入ノ疑アル為未タ許可ヲ与ヘス

(三) 榆樹、五常、一面坡間

本線ハ一面坡ヨリ北走スル予定線及榆樹ヨリ西走スル予定線完成ノ曉之等ヲ連絡スル目的ナルモ未タ単ニ計畫ニ止ル

(四) 一面坡、方正、三姓間約百四十哩

(四) 一面坡、方正、三姓間

本線ハ東支線ノ培養線トシテ露國側ノ熱心ニ計畫スル所ニシテ建設費ヲ二百四十萬元(内支那人出資七十萬元)トシ軌条及運轉材料ハ東支側ヨリ供給スルコトナリ居ル趣ナル処本線中一面坡方正間ハ實現ノ見込アルモ其以上ノ延長線ハ松花江ト並行シ之カ競争線トナルヲ以テ實現困難ナルヘシ尤モ本鐵道ニ關シテハ未タ詳細正確ナル報道ニ接シ居ラス

三、主トシテ支那側ノ計畫ニ係ルモノ

(イ) 奉海鐵道

奉天海龍間  
約一五二哩

(イ) 奉海鐵道

本線ハ我方ニ於テ敷設權ヲ有スル開海鐵道ノ併行線ヲ為スモノナルモ我方ニ於テ支那側ノ本鐵道建設ヲ承認シタル結果奉天当局ハ資本金ノ釀金ヲ關係地方官民ニ割當テ総額二千万

海龍磐石間二〇哩

元ヲ以テ本線ノ敷設ヲ計畫シ既ニ第一段奉天營盤間ノ中撫順ニ至ル迄ノ線ヲ開通シタルカ大正十六年夏迄ニハ全線竣工ノ予定ナリ本鐵道ノ支線トシテ營盤ヨリ興京通化ヲ經テ帽兒山ニ至ル線並本線延長線トシテ海磐(海龍ヨリ磐石ニ至ル)鐵道計畫セラル

尚本鐵道材料ニ關シテハ大正十四年競争入札ノ結果軌条等ハ英商安利洋行ニ又機關車ハ日本側「シンジケート」(大倉、三菱、和登)ニ落札シタリ

(ロ) 開海輕便鐵道

開原海龍間(差當り  
開原掏鹿間)  
百二十八哩(開掏間  
四十五哩)

(ロ) 開海輕便鐵道

本線ハ我方ニ於テ布設權ヲ有スル滿蒙四鐵道ノ一タル開原海龍吉林鐵道ノ一部ナルカ我方ニ於テハ大正十四年本鐵道ノ競争線ヲナス支那側ノ奉海鐵道計畫ヲ承認シ同時ニ開原海龍間鐵道布設權ヲ放棄シタルカ支那側ニ於テハ大正十四年半年官半民ノ株式資本金小洋九十万元(外資ヲ入レス)ヲ以テ本線ヲ計畫シ其中開原掏鹿間ハ本邦人工事ヲ請負ヒ一部ハ既ニ開通シタリ

(ハ) 大虎山白音太拉線

大虎山白音太拉間  
大虎山新立屯間三二  
哩

(ハ) 大虎山白音太拉線

本線ハ京奉線ノ支線ニシテ全線ヲ三段ニ分チ第一及第二段タル大虎山黒山鎮新立屯間(百〇二支里)ハ既ニ完成ス

(ニ) 錦朝鐵道

錦州朝陽間約九二哩

(ニ) 本線ハ京奉線ノ支線トシテ支那交通部カ京奉鐵道利益金ヲ以テ敷設スルモノナリト称スル

モ或ハ英國側ノ資金ニ依ルモノナリトノ説モアリ既ニ錦州ヨリ義州ヲ經北票ニ至ル七十哩ハ竣工セリ

(ホ) 朝赤鐵道

(ホ) 本鐵道ハ支那交通部ノ計畫ニシテ既ニ沿線ノ測量ヲ終リタルモ難工事ニシテ巨額ノ資金ヲ

朝陽赤峰間  
約百五十哩

要スルヲ以テ實現困難ト認メラル本線ハ結局錦朝線ニ依リ京奉鐵道ニ連絡セントスルモノナリ

四、借款團ノ共同事業ニ提供セラレタル鐵道計画

(イ) 洮熱鐵道

洮南熱河間約四七〇哩

本鐵道ハ何レモ滿蒙四鐵道ノ一トシテ（大正七年滿蒙四鐵道ニ關スル日支交換公文参照）我方ニ於テ借款權ヲ有シタルモノナルモ其後大正九年對支借款團代表者紐育會議ニ於テ我方ニ於テハ之等權利ヲ借款團ノ共同事業ニ提供シタリ

(ロ) 洮熱鐵道ノ一地点ヨリ海港ニ至ル鐵道

付 滿州ニ於ケル既成鐵道

(一) 東支鐵道（滿州里ボクラニチナヤ間及哈爾濱長春間）

約一〇七〇哩

(二) 南滿鐵道（寬城子大連間及其支線並安東奉天間）約七〇〇哩

(三) 吉長鐵道（吉林長春間）約八〇〇哩

(付 記)

八月二十八日付大藏滿鐵理事ヨリ木村重細局長宛滿鐵庶庶二六第六号ノ七

滿蒙鐵道計画ニ關スル方針ニ關シ滿鐵側ノ希望申越ノ件

滿鐵庶庶二六第六号ノ七

南滿洲鐵道株式會社

記述ノ通ノ希望ヲ有シ候右ハ是非共御訂正ヲ願フ程ニ重要緊切ノ儀ニハ無之候得共御差支無之候ハハ御承認被下度若御差支有之候ハハ可然御取捨相煩度右得貴意候 敬具

滿蒙鐵道計画ニ關スル方針

第一葉第七行目

一、呼海鐵道 本鐵道ハ「元來東支線ノ……布設ニ努力シ」ヲ左ノ通

「其ノ完成ノ曉ニ於テ東支線ニトリテハ從來安達滿溝地方ニ出廻リ居リタル貨物ヲハルピンニ吸收セラルコトトナリ安達滿溝トハルピン間ノ運賃收入ヲ失フコトトナリ從テ其ノ敷設ヲ希望セス寧ロ海倫安達間ノ鐵道敷設ヲ希望シツアリ又滿鐵ニトリテハ從來西部線ヨリ發送セラルル貨物ノ運賃頗ル不公平ナル結果貨物カ安達滿溝ヨリ發送セラルルニ比シ本鐵道ニヨリハルピンニ搬出セラルルコトハ多大ノ利益アルモノナルカ東支鐵道ニ於テハ前記ノ不利益アルニモ係ハラス本鐵道カ東支以外ノ資本ニヨリテ敷設サルコトハ自鐵道ニトリ多大ノ不利益ヲ齎スヘキヲ憂慮スル結果出來得ルナラ之ヲ自身ノ手ニ於テ敷設セムコトニ努力シ」

(四) 洮熱鐵道（四平街洮南間及鄭家屯白音太拉間）約二百五十五哩

(五) 京奉鐵道 山海關以北（山海關奉天間並支線）約三八〇哩

(六) 天図輕便鐵道（図們江岸老頭溝間及支線）約六九哩

外務省重細局長 木村 銳市殿 理事 大藏 公望（印）

滿蒙鐵道計画ニ關スル方針ニ關シ會社希望ノ件

過般上京ノ際御手交ヲ蒙リタル貴局私案首題ノ件ハ根本ニ於テハ會社ニ於テ異議無之候得共内容中ノ辭句ニ關シ別紙

（理由、辭句ヲ更ニ事實ニ適合セシムル為）

第三葉第二行目

本線今後ノ延長ニ至リテハ「滿鐵ノ貨物……特ニ必要ナラサル處」ヲ左ノ通

「綏化ヨリ海倫ニ至ル約七十哩間ノ新設ハ滿鐵ノ貨物吸收策ヨリ見テ相場必要ナルモ既ニ綏化ニ到達シタル以上大体ニ滿鐵希望ノ過半ヲ達成セルコトニモアリ殊ニ」

（理由、辭句ヲ更ニ事實ニ適合セシムル為）

第五葉第二行目ノ終リ

「コトト致度」ヲ「等ノ方法ニヨリ成ル可ク徒ニ露國ノ感触ヲ損ウコトナクシテ其ノ實現ヲ見ルコトト致シ度」

（理由、方法ノ範圍ヲ廣クシ置ク為）

第九葉第三行目

言ヲ俟タサル處「滿州」ニ於ケルヲ「滿蒙」ニ於ケル（理由、十三年松岡理事外務省協議ノ趣旨ニ適合セシムル為）

第九葉第六行目

吉長線ト連絡「シ滿鐵ニ於テ經營スルコトトナリ居レル」

ヲ左ノ通

「ノ曉ハ之ヲ現在ノ古長線ト連絡シ共同經營ノ下ニ置クニ至ルヘク而シテ工事請負金カ事實借款ニ變更サルル結果滿鉄ハ必然貸款者トシテ長年月ニ亘リ此ノ經營ニ関与スルニ至ル次第ナルニ付」

(理由、原案ノ如ク滿鉄カ經營スルト言フハ吉敦契約ノ条文ニ照シテ当ラサルヲ以テナリ)

第十葉第四行目

「長大並白開ノ二線」ヲ左ノ通

「長大並白開及其ノ延長線ノ二線」

(理由、白開線ノ延長ヲ予想セルニ依ル)

第十二葉第七行目ノ末尾

「等ノ三点」ヲ削リ左記ヲ挿入

「(一)本鐵道ノ完成ニヨリ予テヨリ張作霖氏ノ希望シ居ル東北地方開墾ノ一部ヲ實現セシムルコト等ノ四点」

(理由、辭句ヲ更ニ事實ニ適合セシムル為)

(2) 洮青鐵道關係

ノ言及ニ関スル滿鉄洮南公所長報告送付ノ件

公領機密第一四号

大正十五年一月十四日

在哈爾賓

總領事 天羽 英二

在奉天

總領事 吉田 茂殿

洮南ニ於ケル吳俊陞ノ挨拶ニ関スル件

往電第七号ニ関シ洮南ニ於ケル吳俊陞ノ挨拶ニ関シテハ支那側ニハ種々ノ情報伝ハルモ別紙洮南滿鉄公所報告ハ詳細ニ亘ルヲ以テ既ニ御入手ノコトトハ察スルモ御参考迄

本信写送付先 外務大臣、在支公使

(別紙)

洮南通過時ニ於ケル吳俊陞ノ談話

黑龍江省督軍吳俊陞ハ部下數十名ト共ニ本月六日午後三時臨時列車ニテ洮南着当地電燈公司ニ於ケル官民連合ノ歡迎會ニ臨場ノ後同夜十時發洮昂線ニ依リ北行シタルカ酒宴開催中偶々馮玉祥外蒙赤露勢力圈内へ逃亡セシ旨我奉天總領事ヨリ張鎮守使ヲ經テ吳俊陞宛電報來着スルヤ吳俊陞ハ之

一〇三五 一月十五日 在ハルビン天羽總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

洮南通過時ニ於ケル吳俊陞ノ挨拶ニ関スル在

奉天吉田總領事宛報告送付ノ件

付屬書 一月十四日付在ハルビン天羽總領事ヨリ在奉天

吉田總領事宛公領機密第一四号

洮南電燈公司歡迎會ニ於ケル吳俊陞ノ自弁鐵道敷設希望等ヘノ言及ニ関スル滿鉄洮南公所長報告送付ノ件

機密第三二号

(一月二十七日接受)

大正十五年一月十五日

在哈爾賓

總領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

洮南ニ於ケル吳俊陞ノ挨拶ニ関スル件

本件ニ関シ本月十四日付機密第一四号ヲ以テ奉天總領事宛報告致置タルニ付右写御参考迄茲ニ送付ス

(付屬書)

一月十四日付ハルビン天羽總領事ヨリ在奉天吉田總領事宛公領機密第一四号

洮南電燈公司歡迎會ニ於ケル吳俊陞ノ自弁鐵道敷設希望等ヘ

ヲ來會者ノ回覽ニ付シタル後左記要旨ノ「テーブルスピーチ」ヲ試ミタリ

過般出征ノ途次洮南通過ノ際ハ各界諸賢ノ接迎ヲ受ケタルカ當時戰況不明ニシテ寧ロ悲觀ニ陥リ慨歎ニ勝ヘサルモノアリシモ今次帰任途中再ヒ諸賢ト此所ニ於テ相會シ殊ニ鄭重ナル歡迎會ノ催シニ預リタルコトハ誠ニ歡喜措ク能ハサル所ナリ今期郭逆ヲ掃滅シ我東三省ノ一大禍ヲ除キ得タルハ吾一人ノ幸ニ非スレテ東三省民ノ幸福ナリ

今次郭逆ヲ勦滅シタルコトハ其実頗ル重大ナル意アリ即チ郭逆ハ馮玉祥ト結托シ赤化共產主義ヲ實施セントスルモノニシテ此舉タルヤ單ニ中国ノミナラス延ヒテ東亞大局ノ安寧秩序ヲ紊サントスルモノニテ彼等ハ広東軍人輩ト共ニ共謀シテ極力其主義ヲ實行セントセリ而シテ今馮ノ一翼タル郭逆ヲ倒シテ東三省ノ小康ヲ得タリ

今次郭逆ヲ討滅シ得タルハ我一人ノ力ニ非スシテ日本之ヲ援助シタルニ因ルモノナリ蓋シ中日兩國ハ唇齒輔車ノ關係ヲ有シ相依リテ以テ馮郭ヲ制シ東亞大陸ノ安寧ヲ攪乱セントスル赤化共產主義ノ實行ヲ未然ニ防キ中日兩國ノ共存共榮ヲ計ラントスルカ故ニ日本官民ノ袖手傍觀スル能ハサル